



学校法人中越学園

長岡大学

令和3年度 学生による地域活性化プログラム

鯉江康正ゼミナール 活動報告書

コロナ禍における「まちの駅」の 新たな交流・連携のあり方を考える



10

令和3年度

ごあいさつ



長岡大学 学長 村山 光博

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」は、3、4年次の専門ゼミナールに所属する学生グループが、地域課題の解決や地域の魅力創出に向けた調査研究と具体的な活動を行うことにより、学生の職業人としての基礎的能力向上と地域活性化への貢献を同時に目指すプログラムです。本プログラムは2007（平成19）年度に導入してから、これまで十数年に渡り継続しながら発展してきた本学の特徴的な教育プログラムの一つであります。最近、取り組みの中心でもある地域の現場における学生の諸活動を新聞やテレビ、ラジオ等のメディアでも取り上げていただく機会も増えてきました。また、これまで本プログラムの運営に多大なるご支援ご協力をいただいていた地域連携アドバイザーをはじめ地域の皆様から、これらの取り組みに対する激励のお言葉をいただいております。長きにわたりこの取り組みを続けて来られたのは、ひとえに地域の皆様の暖かいご支援とご指導の賜物と、心より感謝申し上げます。

「地域活性化とは」という問いに対する明確な答えを述べることはなかなか難しいのですが、本プログラムでは、答えのない様々な地域課題に対して、それら課題の原因をどのように捉え、どのように行動を起こして対応していくのかについて、学生が自ら体験することができます。卒業後には地域社会の一員となる学生たちが、将来、各職場や地域コミュニティの中にあるそれぞれの地域課題に取り組むことになる考えると、これらの体験は彼らにとって大変貴重なものとなることでしょう。

本プログラムでは、各ゼミナールで設定したテーマの下で学生グループが活動を進めていくこととなりますが、時には一緒に活動する学生同士のちょっとしたすれ違いや地域の大人たちとの意見の食い違い等も起きることがあります。このような体験も学生がさらに一歩、人として成長するためのきっかけとなります。各グループで決めたテーマをまとめ上げるために、どのように他者と協力しながら取り組みを進めていくべきなのか、このグループの中での私の役割は何か、などを考えながら活動を行っていくことで、グループで活動することの難しさだけでなく、グループで目標に向かって何かをやり遂げることの充実感や達成感を味わうことができます。

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」では、学生が地域に飛び込んで地域の皆様と一緒に汗をかき、楽しみ、そして考える中から、目先の地域貢献活動だけでなく、将来にわたって地域の活性化を担っていく事のできる人材の育成を目指しております。本学の建学の精神は、「幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進」と「地域社会に貢献し得る人材の育成」です。本プログラムは、まさにこの精神を実現するための中核となる教育プログラムであると言えます。

本活動報告書は、各取組テーマの調査研究活動の概要とその成果について学生が執筆した報告書を集めて一冊にまとめたものです。ぜひご一読いただければ幸いです。

なお、本プログラムは「NaDeC 構想推進コンソーシアム産学協創ワーキング」から補助をいただいたことを申し添えます。

2022年3月



長岡大学は、文部科学大臣の認証を受けた『公益財団法人日本高等教育評価機構』により、平成28年度大学機関別認証評価を受審し、平成29年3月7日、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしていると「認定」されました。

はじめに

コロナ禍における「まちの駅」の 新たな交流・連携のあり方を考える



長岡大学教授／ゼミ担当教員 鯉江 康正

人口減少が進む新潟県内において、各自治体は地域社会を維持・継続させるために、防災対策、少子高齢化対策、産業振興策、教育・文化に関する政策、地域振興・まちづくり政策など様々な施策を実施しているが、その効果は限定的と言わざるを得ないのが実状である。そのような状況下において、外的な力で活性化を図ることは、一時的には効果が期待できるが、長期的な観点からは地域内部での自発的な協調・協力こそが地域を支える力となるものと思われる。以上のような考えのもと、鯉江ゼミでは平成19年度から「まちの駅」をフィールドとして活動している。

今年度は、『コロナ禍における「まちの駅」の新たな交流・連携のあり方を考える』をテーマとして活動を行った。このテーマに決定した理由は、以下のとおりである。まず第1は、本年度は昨年度に続き、コロナウイルスの感染拡大という先行不透明な状況でのスタートとなったことである。そのため、一昨年まで主に行ってきた地域に出て地域の方々との交流を主な手段とする活動ができない可能性を考慮した。第2は、昨年度の活動のなかで、まちの駅同士の交流や連携に課題を抱えているまちの駅が多いことが明らかとなったが、それに対する何らかの回答を提供する必要性を強く感じていた。第3は、コロナを理由に広報や交流を完全に止めてしまえば、自治体のバックアップや資本金にまさる「道の駅」に対して、「まちの駅」の存在自体が完全に否定される可能性を恐れたことである。そのため、学外活動がしにくい中でも、できる限り安全に行える活動から実施することを決めた。以上の考えから、活動目標を大きく2つに分類した。1つ目は、「まちの駅のあり方に関するアンケート調査」を通して、まちの駅で行われている活動を明らかにし、それらがまちの駅の方々にとどのような影響を与えており、今後どのようにしたらより活性化するかを提案することである。2つ目は、まちの駅への貢献活動とその発信を通して地域と来訪者を繋げることを目標に以下の活動を行った。「まちの駅&どまいち 春の物産フェア」、「はなはす展示」のボランティア活動を行った。その他にも、6駅を対象として1分間ラジオCMも制作した。長岡市、見附市のまちの駅にヒアリング調査を行った。アオーレ長岡とネーブルみつけにてパネル展示会も行った。さらに、昨年度開設したInstagramでの活動紹介、鯉江ゼミナールのホームページの新設、見附市で開催が延期となっていた「まちの駅オンライン全国大会」への参加とそこでの活動報告を行った。

10年を超す長い活動を通して、学生が得てきたものは、「自分たちがこれまでやってきた活動に自信を持ち、それを伝える」ことが大切で、「地域活性化活動はやらされているのではなく自分たちから楽しんでやる」ことであるということであった。繰り返しになるが、少子高齢化が進み人口減少が避けられない地域において、地道な活動こそが地域を支え、真に豊かな「まち」を形成できる第一歩であると私は考えている。本報告書はそれをまさに実践した活動報告である。

2022年3月

鯉江康正
ゼミナール

コロナ禍における「まちの駅」の 新たな交流・連携のあり方を考える



【参加学生】 16名(4年生14名、3年生2名)

4年生 赤塚倫子、木下歩美、坂元明日香、李智超
NyamaaBaljinnyam

3年生 内山葵、尾身萌々花、小林桃香、柴野奏人
高島元輝、長原史拓、星美紀、山井良海
吉田和弥、OchirpurevAriunjargal

【アドバイザー】

まちの駅ネットワークみつけ 代表 久住幸靖 氏

NPO 法人市民協働ネットワーク長岡 コーディネーター 太田道子 氏

1. 活動目標

今年度のテーマを実現するための活動目標は以下の2つである。

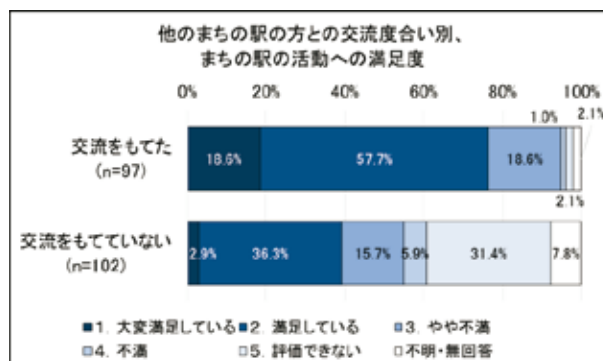
活動目標1：まちの駅で行われている活動を明らかにし、それらがまちの駅の方々にどのような影響を与えており、今後どのようにしたらより活性化するのかを提案すること

活動目標2：まちの駅への貢献活動とその発信を通して、地域と来訪者を繋げる活動をする

2. 活動目標1の成果

「まちの駅のあり方に関するアンケート調査」を実施した結果、以下のことが明らかとなった。

- ① まちの駅に対する満足度と活動状況を伺ったことで、まちの駅としての参加実感を失わないために、交流に重点を置いて活動する必要があることが明らかとなった。
- ② Zoomでの交流会に「参加したい」と回答した方は30.2%に過ぎなかった。
- ③ 交流の重要性と遠隔での交流の難しさから、まずは対面型を重視した地域内での交流を密にする必要がある。それからネットワーク間での交流へと輪を広げていけば、Zoom等での交流も可能となり、連携機能の向上に繋がると感じた。



3. 活動目標2の成果

様々な活動とその発信によって、以下のような成果を上げることができた。

- ① ネーブルみつけで開催された「まちの駅&どまいち 春の物産フェア」、アオーレ長岡で開催された「はなはす展示」でボランティア活動を行った。その結果、地域の方々との交流を図ることができた。
- ② 6駅の1分間ラジオCMの制作・オンエア、アオーレ長岡とネーブルみつけでのパネル展示会を通じて、まちの駅の広報ができた。
- ③ Instagramでの活動紹介、鯉江ゼミナールのホームページの新設、見附市で開催が延期となっていた「まちの駅オンライン全国大会」への参加によって活動報告することができた。



コロナ禍における「まちの駅」の
新たな交流・連携のあり方を考える

鯉江ゼミナール

- 18K001 赤塚倫子
- 18K033 木下歩美
- 18K049 坂元明日香
- 18K118 李智超
- 18K304 ニマー・バルジンニャム
- 19K013 内山葵
- 19K025 尾身萌々花
- 19K035 小林桃香
- 19K048 柴野奏人
- 19K056 高島元輝
- 19K079 長原史拓
- 19K097 星美紀
- 19K106 山井良海
- 19K112 吉田和弥
- 19K303 オチルプレブ・アリウンジャラガル

目 次

1. 調査・研究の目的	1
1.1 本年度の調査・研究活動	1
1.2 本報告書の構成	2
2. 「まちの駅」の概要と過年度の調査・研究活動の概要	2
2.1 「まちの駅」の概要	2
2.2 過年度の調査・研究活動の概要	5
3. まちの駅のあり方に関するアンケート調査	7
3.1 アンケート調査の概要	7
3.2 調査結果	8
3.3 アンケート調査のまとめ	16
4. まちの駅への貢献活動とその発信	17
4.1 経緯	17
4.2 ヒアリング・パネルの作成	17
4.3 まちの駅パネル展	23
4.4 地域貢献活動	24
4.5 まちの駅1分間CM	26
4.6 Web ページの制作	28
4.7 Instagram による広報活動	30
4.8 第23回まちの駅オンライン全国大会	31
4.9 成果発表会	32
5. まとめ	33
5.1 今年度の活動成果	33
5.2 来年度の活動	34
<謝 辞>	34
<参考文献>	35
<参考資料1> まちの駅のあり方に関する調査（調査票及び単純集計結果）	36
<参考資料2> 第23回まちの駅オンライン全国大会（パンフレット）	41

1. 調査・研究の目的

1.1. 本年度の調査・研究活動

令和3年12月12日現在の新潟県内の「まちの駅」の開設数は129駅であり、総数は昨年と同様である。県内の主要なネットワークは、越後長岡まちの駅ネットワーク（50駅）、まちの駅ネットワークみつけ（41駅）、まちの駅ネットワーク糸魚川（10駅）、まちの駅ネットワークごせん（5駅）であり、それ以外にも個人・法人が独自に開設しているまちの駅がある。

昨年度、鯉江ゼミナールでは『まちの情報発信拠点「まちの駅」の認知度アップに向けて』をテーマとして、調査・情報収集・発信の3つの活動を行った。今年度は、『コロナ禍における「まちの駅」の新たな交流・連携のあり方を考える』をテーマとして活動を行った。このテーマに決定した理由は、以下のとおりである。まず第1は、本年度は昨年度に続き、コロナウイルスの感染拡大という先行不透明な状況でのスタートとなったことである。そのため、一昨年まで主に行ってきた地域に出て地域の方々との交流を主な手段とする活動ができない可能性を考慮した。第2は、昨年度の活動のなかで、まちの駅同士の交流や連携に課題を抱えているまちの駅が多いことが明らかとなった。このことに対する何らかの回答を提供する必要性を強く感じた。第3は、コロナを理由に広報や交流を完全に止めてしまえば、自治体のバックアップや資本力にまさる「道の駅」に対して、「まちの駅」の存在自体が完全に否定される可能性を恐れた。そのため、学外活動がしにくい中でも、できる限り安全に行える活動から実施することを決めた。

以上の考えから、活動目標を大きく2つに分類した。1つ目は、「まちの駅のあり方に関するアンケート調査」を通して、まちの駅ネットワークではどのような活動が行われており、それらがまちの駅の方々にとどのような影響（満足度）を与えており、今後どのようにしたらより活性化するのかを提案することである。2つ目は、まちの駅への貢献活動とその発信を通して地域と来訪者を繋げることを目標に以下の活動を行った。昨年は開催が中止になってしまった「まちの駅&どまいち 春の物産フェア」、アオーレ長岡で開催された「はなはす展示」のボランティア活動を行った。その他にも、1分間ラジオCMは昨年度からの取り組みで、「越後長岡酒と味の駅」「まちの駅伊丹」「まちの駅JAZZ楽」「栃尾まちの駅とちパル」を含めた計6駅のラジオCMを制作した。ヒアリング調査では、長岡市1駅、見附市3駅の計4駅のまちの駅にヒアリングを実施し、調査をもとに作成・更新したパネルは、アオーレ長岡とネーブルみつけにてパネル展示会を行った。さらに、昨年度開設したInstagramでの活動紹介、鯉江ゼミナールのホームページの新設、見附市で開催が延期となっていた「まちの駅オンライン全国大会」への参加とそこでの活動報告を行った。

今年度の活動一覧

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ボランティア活動	まちの駅 春の物産フェア 3月14日					はなはす展示 7月20日、28日 8月6日				
長岡大生プレゼンツ！ 「まちの駅60秒CM」				放送期間 6月21日～7月2日						
ヒアリング パネル作成				6月30日、7月6日 8月8日、8月19日						
パネル展			ネーブルみつけ 8月10日～9月20日：41駅		アオーレ長岡 8月17日～8月31日：50駅					
まちの駅 全国大会						活動報告 8月27日	オンライン全国大会 11月9日			
Instagram	2020年9月開設									
Webページ作成			7月開設							
アンケート調査			計画		準備			10月5日～10月22日 計442駅に実施		

1.2. 本報告書の構成

第1章では、今年度の調査・研究活動について、その概要を紹介する。

第2章では、「まちの駅」の概要、過去5年間の鯉江ゼミナールにおける調査・研究活動の概要について紹介する。

第3章では、調査活動である、「まちの駅のあり方に関する調査」について詳しく紹介する。

第4章では、「まちの駅への貢献活動とその発信を通して地域と来訪者を繋げる」というテーマについての活動を詳しく紹介する。

第5章では、今年度の活動成果と来年度の活動に対する展望を述べ、とりまとめとする。

2. 「まちの駅」の概要と過年度の調査・研究活動の概要

2.1. 「まちの駅」の概要

本節では、「全国まちの駅連絡協議会 まちの駅 (<http://www.machinoeki.com/>)」(文献1)を参考に「まちの駅」が備えるべき機能、施設等の要件を整理しておく。

2.1.1. まちの駅の定義と機能

まちの駅は必ずしも新設のものである必要はなく、既存施設の活用により、市町村、NPO、団体等が地域連携を目指しネットワークを図ることを原則とし、様々な運営主体、施設内

容、規模、運営形態を持ったまちの駅が、共存することを想定している。したがって、市町村という行政区を超えた連携を目指して、地域住民や来訪者が求める地域情報を提供する機能を備え、人と人の出会いを促進する施設である。また、まちづくりの拠点となり、まちとまちをつなぐ役割を有するものであり、以下の機能を備えるものである。

- 誰でもトイレが利用でき、無料で休憩できる機能（休憩機能）
- まちの駅案内人が、地域情報について丁寧に教える機能（案内機能）
- 地域の人と来訪者の、出会いと交流のサポートをする機能（交流機能）
- まちの駅間でネットワーク化し、もてなしの地域づくりを目指す機能（連携機能）

2.1.2. 名称およびシンボルマーク

3つの山のようなマークは「人」を表す。一つ目の山は「よそ者」、二つ目は「ばか者」、三つ目は「わか者」を表している。真ん中の「i(アイ)」は、インフォメーションを表している。つまり、このマークは「いろいろな人が集まり、出会いが生まれ、まちや地域のことを教えてくれる人がいる場所」を意味している。まちの駅は、このマークの本来の意味を保つためにも、人同士・駅同士の「交流」が何よりも大切である。



まちの駅のマーク

各まちの駅は、その理念を共有した上で、地理的条件、運営目的などに応じて、個性ある名称を付けるようにしている。

ただし、全国共通のシンボルマークを併記することが必要である。全国共通のシンボルマークは「まちの駅連絡協議会」に入会したもので、かつ、一定以上の条件を具備した施設に使用が認められている。

2.1.3. 看板の設置

各まちの駅は、前項のまちの駅相互の連携を保ち、利用者の信用を確保するために、一定の規格に沿った共通シンボルマークを表示した看板を設置することが義務付けられている。その規格等は、別に定めた「シンボルマーク仕様・看板設置マニュアル」に従うこととなっている。

2.1.4. 連携・支援

まちの駅は、相互で連携・支援し合うことを基本として、これらを促進するために各地の状況に応じて連携支援事項を申し合わせることになっている。「道の駅」などとの関係においては、特に形式的に区別せず、相手との協議に応じて、共存、連携していくことが進められている。

2.1.5. 人の配置

まちの駅には、「もてなしの心」を持った人を常駐させることが必要であるが、他の職務との併任でも構わない。案内人は、まちや隣接市町村などに関わる知識を習得するように努めることとされている。まちの駅運営者は、案内人が積極的に研修を受けられるように

するとともに、他の地域を含む案内人同士の交流の機会を作ることと努めることとされている。まちの駅連絡協議会主催の全国大会や研修会、その他地域大会が開催される場合は、可能な限り派遣に努めることも必要である。

2.1.6. 設備・備品・サービス

まちの駅に必要な最低限レベルの設備・備品・サービスは以下の通りである。

- まちの駅の看板（のぼり、シール等でもよい）
- 利用者が休憩できるスペース、椅子など
- トイレ（障害者も利用可能なものが望ましい）
- まちおよび周辺の情報

2.1.7. 情報の整理、提供

まちの駅は、道路交通、地図情報、地元情報（観光、イベント、文化、歴史、住民活動等）、緊急時の対応などに関わる情報を常備することが必要とされている。

2.1.8. 登録

まちの駅として登録を受けるためには、別に定める認定申請書に必要事項を記入の上「まちの駅連絡協議会事務局」に提出しなければならない。「まちの駅連絡協議会」役員会で、まちの駅の要件を欠くと判断した場合には、具体的な問題点を当該まちの駅に文書で通知することとなっている。通知を受けたまちの駅は早急に改善しなければならない。改善が図られない場合には、速やかに退会届を提出することとなっている。

2.1.9. 報告

まちの駅に携わる者は、相互の運営およびまちの駅の全国レベルでの運営戦略展開に資するために、所定の項目について、電子メール等を活用し、定期的に情報交換を行うこととなっている。報告事項については、まちの駅ホームページで紹介される。

2.1.10. 全国組織

全国共通に実施することについては、「まちの駅連絡協議会」において定めることとし、その規定に従うことになっている。

2.1.11. 道の駅とまちの駅の違い

「まちの駅」と「道の駅」を混同している方が多いというのは、各地からよく聞かれる声である。文字と違って、発音が似ているので聞き間違いやすいことも一因と考えられる。

「道の駅」は、①休憩機能②情報発信機能③地域連携機能の3つを併せ持った公共施設である。利用者が無料で24時間利用できる十分な容量を持った駐車場や清潔なトイレがあることなどの登録要件とともに、設置者が「市町村または市町村に代わり得る公共的な団体」と定められている。国土交通省のホームページ（文献2）では、「道の駅」の沿革として「平成3年10月～4年4月「道の駅」を実験（山口県、岐阜県、栃木県）」とし

か記載されていない。「道の駅」の社会実験は国が行ったのではなく、地域交流センターが事務局となって、地元自治体や各種団体メンバーで協議会を組織して実施したものである。仮設の「道の駅」を設置して約1ヶ月の利用状況を検証した。その実験結果を受けて、建設省道路局により「道の駅」の共通コンセプトが整理され、平成5年に「道の駅」は制度化された。それから28年が経ち、全国各地に「道の駅」の設置が進められ、令和3年6月時点で1,193駅が登録されている。「道の駅」の発想は、平成2年1月に地域交流センターが中心となって広島で開催した「中国・地域まちづくり交流会」の中で山口県の船方農場代表の坂本多旦氏が、「道路にも鉄道の駅のような施設があっても良いのではないか」と発言されたことに始まる。そこで、参加者の賛同を得て、道路沿いに「駅」を作る実験事業が始まった。トイレに困った体験がきっかけなので、「道の駅」にはトイレが必須の設備になった。

一方、「まちの駅」は①休憩機能②案内機能③交流機能④連携機能の4つの機能を持ったたまり場である。コンセプトは「道の駅」とあまり変わらないが公共機関に限らず民間商店やNPO等でも設置・運営できる点が大きく違う。「全国まちの駅連絡協議会」が認証しているといっても条件は緩くして駅長になる方の地域や人を思う気持ち、「おもてなし」の心を大切にしている。そのため個人商店や小規模施設から大型店舗や企業の工場、多機能施設など多種多様な主体が施設（の一部）を休憩&交流スペースとして開放し、「まちの駅」となっている。「まちの駅」をきっかけに思いを持った人同士がつながり、緩やかなネットワークが形成されている。

「道の駅」は、公共インフラとしての物理的作用により人々の利便性を高め、社会を支える機能も拡張している。一方の「まちの駅」では、街なかの様々な人々の出会いと語りの中から人間関係の化学反応が起きて地域を変える力になっていくことが期待されている。両者の違いから「道の駅」として登録された施設が地域内外の交流・連携を求めて、まちの駅ネットワークに参加する例も増えてきている。

2.2. 過年度の調査・研究活動の概要

本ゼミでは、平成19年度より「まちの駅」をテーマに調査・研究活動を行ってきた。最近5年間の活動概要は以下のとおりである。なお、平成19年度から平成27年度の活動概要については、文献3を参照されたい。また、各年度の活動報告書については、「鯉江ゼミナールの取組 新潟まちの駅の紹介」(<https://koie-seminar.amebaownd.com/>)を参照されたい。

〈平成28年度〉

平成28年度は、『「まちの駅」をフィールドとした活動等による地域活性化活動への貢献』をテーマとして、新潟県内まちの駅の調査・研究と地域活性化活動（ボランティア）を行った。

まちの駅の調査・研究では、長岡19駅、見附12駅、糸魚川2駅、新潟2駅、魚沼1駅、五泉1駅、の合計37駅のまちの駅のヒアリング及びパネルの更新を行い、学園祭やアオーレ長岡市民協働センターで展示、ホームページで掲載を行った。

地域活性化活動（ボランティア）では、まちの駅を通じて地域イベントへ参加した。また、まちの駅全国フォーラム in Tokyo、新潟県内まちの駅交流会にて各まちの駅の方々と意見交換を交えた交流を行った。

〈平成 29 年度〉

平成 29 年度は、新潟県内まちの駅の調査・研究と地域活性化活動を行った。その他にまちの駅の情報発信活動として、まちなかキャンパス長岡子ども講座こどもカフェや株式会社ユアテック技術センター中越地区安全協議会第 27 回安全大会へ参加し本ゼミナールの活動発表を行った。もう一つの活動として、「まちの駅」から越路地域の魅力発信を行った。越路地域の全 7 駅のまちの駅と連携し、越路まちの駅マップを作成した。作成したマップをもみじ園のイベントや悠久祭のパネル展で配布を行い越路地域の魅力発信ができた。

〈平成 30 年度〉

平成 30 年度は、新潟県内のまちの駅の紹介パネルの作成・更新、地域行事のボランティアを行った。この他に、まちの駅の情報発信活動として FM ながおかのラジオ番組「長大生と行く！まちの駅ヒアリング GO！！」を制作した。そして「第 21 回まちの駅全国大会 in 会津」に参加し、各地のまちの駅の現状・課題について意見を交わした。同時に本ゼミナールの活動発表も行った。また栃木県鹿沼市にある「まちの駅ネットワークかぬま」の方々を長岡市の越路地域に招待し、越路地域の観光スポットをご案内した。

〈令和元年度〉

令和元年度は、昨年度に引き続き新潟県内のまちの駅の紹介パネルの作成・更新、悠久祭で模擬店とパネル展を行った。さらに、まちの駅を通して様々な地域イベントへの参加やまちの駅 1 分間 CM の作成、越路マップの改定、新潟県内のまちの駅交流会の企画・運営から地域活性化活動に取り組んだ。また、「まちの駅&どまいち 春の物産フェア」、「とうきび観音まつり」、「今町まちなかマルシェ」、「はなはすの水やり」、市民協働ネットワーク長岡の方からご依頼を受け、「ながおか市民活動フェスタ」の合計 5 つのイベントにボランティアとして参加し、地域を盛り上げた。

〈令和 2 年度〉

令和 2 年度は、まちの駅の認知度向上のために本学の学生とそのご家族にアンケート調査を行い、一般の方にも調査を実施した。その結果をもとにゼミナールのまちの駅紹介の広報媒体として、Instagram アカウントを開設した。また、まちの駅紹介パネルの作成・更新に加え、パネル展示会の開催、まちの駅 1 分間ラジオ CM の作成を行った。さらに、新たな試みとして留学生による外国人向けパンフレットの作成に取り組んだ。

3. まちの駅のあり方に関するアンケート調査

今年度の1つ目の活動目標を達成するにあたって、7つのまちの駅ネットワークに加入している駅を対象にアンケート「まちの駅のあり方に関する調査」を実施した。なお、調査票および単純集計結果は<参考資料1>を参照されたい

3.1. アンケート調査の概要

昨年度までの活動の中で、多くのまちの駅が交流や連携に課題を抱えている印象を受けた。そこで、今年度の活動目標の1つに「まちの駅の新たな交流・連携のあり方を考える」を掲げ、コロナ禍でどのような交流・連携がまちの駅を活性化できるのかを考えた。

まず、私たちは「交流・連携機能に課題を抱えているまちの駅は、まちの駅としての満足度も低いのではないか」と仮説を立てた。この仮説を立証し、どのような方向性がまちの駅を活性化し、さらに、コロナ禍における交流・連携のあり方を模索すべく、全国のまちの駅を対象に満足度についてのアンケート調査を実施することとした。

3.1.1. 調査対象

全国のまちの駅約1550駅から、比較的大きなネットワークを組んで活動している7つのまちの駅ネットワークを対象とした。

調査対象者の選定にあたっては無作為に抽出することも考えたが、住所録が十分に整備されていないこと、昨年度全国まちの駅連絡協議会が実施したアンケート調査では回収率が10%にも満たなかったこと、および、ゼミで使える予算に制約があることを考慮して、ネットワークに属するまちの駅を対象とした。

3.1.2. 調査方法・調査期間

郵送配布・郵送回収（令和3年10月5日～22日）

3.1.3. 調査対象駅と回収数

調査対象は、全国のまちの駅の中から比較的大きなネットワークを組んでいる7つのまちの駅に属する442駅を対象にアンケートを送付し、回収数は199票（回収率45.0%）であった。なお、当初は8つのネットワークを対象としていたが、そのうち1つのネットワークから「事務局が取りまとめて配布・回収ならば」という条件が付けられた。この方法では、設問に満足度を伺う項目があることから、回答にバイアスがかかる危険性を考えて、今回は断念し7つのネットワークを対象とした経緯がある。

3.1.4. 調査項目

調査項目は以下のとおりである。なお、各項目には1～8の設問が設定されている。

【問1】調査対象駅の属性（まちの駅名、回答者、認定年月日、連絡先等）

【問2】まちの駅の施設形態について

【問3】参加したことがあるイベントについて

【問4】まちの駅の情報通信技術の状況について

【問5】まちの駅間の連絡手段について

【問6】まちの駅になったことの満足度（不満度）について

3.2. 調査結果

ここからはアンケート調査の結果から、特に着目した4点を紹介する。

1点目は、満足度についてである。「まちの駅になったことに満足していますか。」という設問の結果については以下の通りである（図3-1参照）。

全体を見ると、「大変満足している」「満足している」と答えた方が合わせて57.3%であり、半数以上が満足していることが分かる。しかし、まちの駅に認定された期間別に見ると2000年から2019年にかけて徐々に満足度が低くなるという結果になった。認定年別のイベントの参加状況を見ると、シールラリーや「まちの駅巡り」などのイベントにホスト（受け入れ側）として参加したことがある方が2000年～2009年では60.8%であるのに対し、2015年～2019年では41.1%であった（図3-2参照）。自地域のまちの駅ネットワーク内での交流会・懇親会に参加したことがある方は2000年～2009年では74.5%であるのに対し、2015年～2019年では41.1%である（図3-3参照）。イベント、交流会・懇親会のどちらも2000年から2019年にかけて低くなっていることが分かる。この結果から、初期の頃にまちの駅になった駅ではイベントへの参加や交流によって活動が十分にできているために、まちの駅としての満足度が高いと考えられる。

一方で、新型コロナウイルスの影響もありイベントが開催しにくい状況にも関わらず、2020年～2021年の最近2年間でまちの駅になった駅で満足度が高いのは、まちの駅に対する期待度の高さによるものと考えられる。

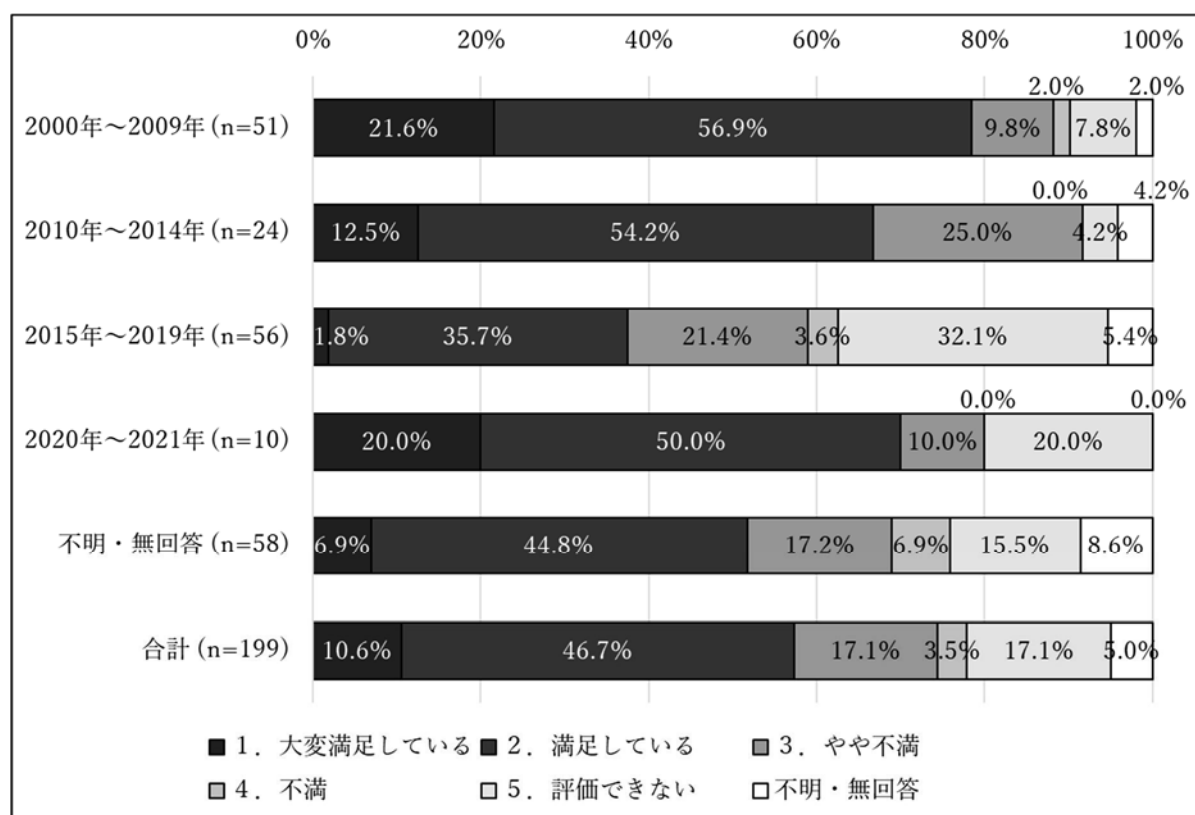


図3-1 まちの駅に認定された期間別に見た、まちの駅としての満足度

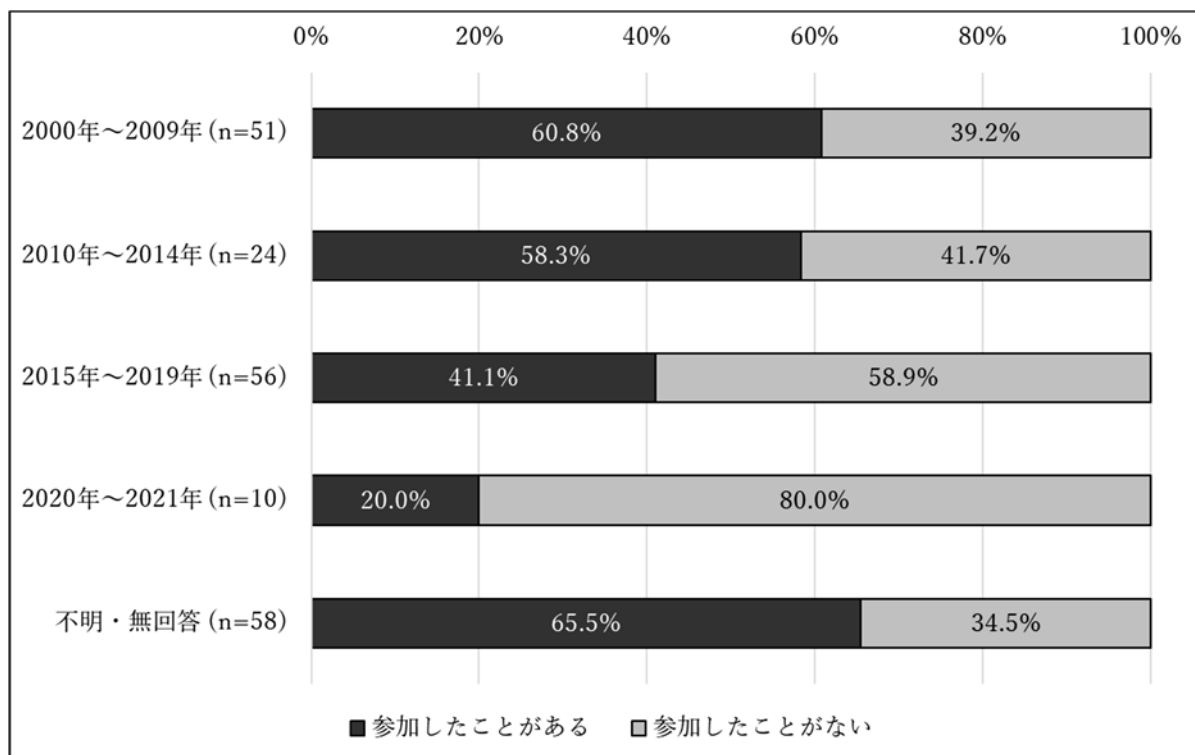


図 3-2 まちの駅に認定された期間別に見た、シールラリーや「まちの駅巡り」などのイベントのホスト（受け入れ側）としての参加状況

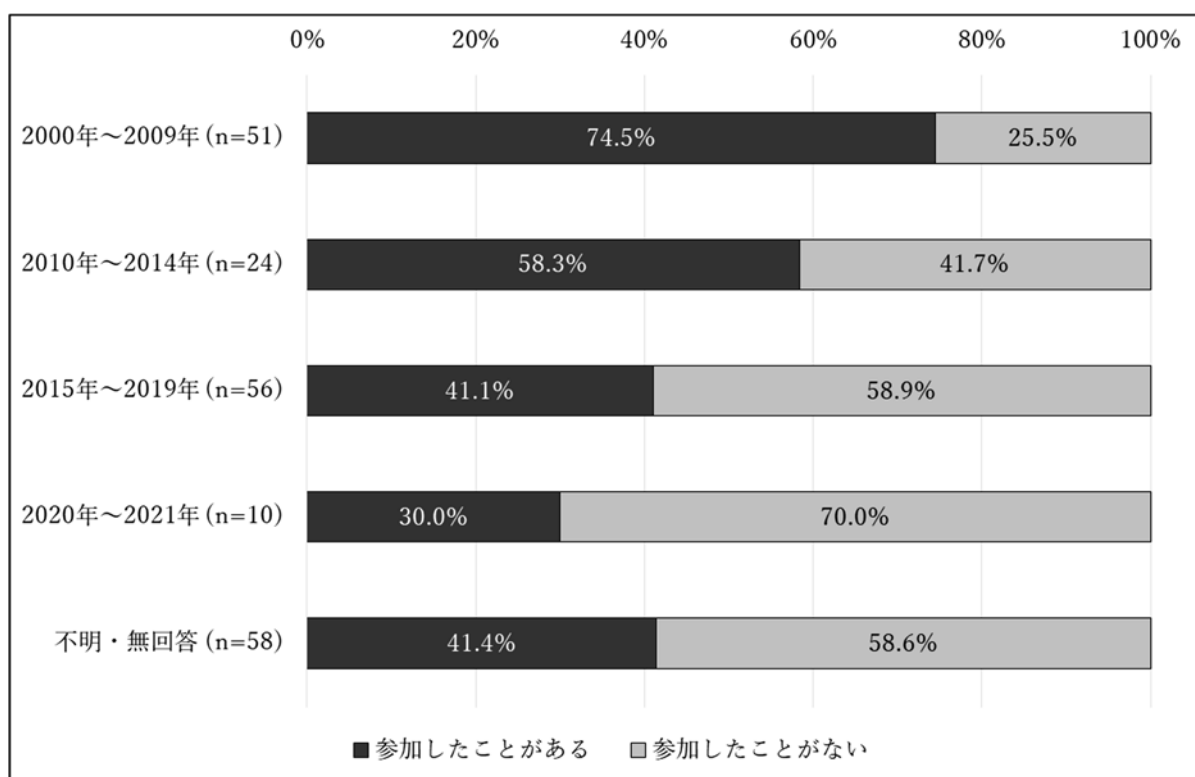


図 3-3 まちの駅に認定された期間別に見た、自地域のまちの駅ネットワーク内での交流会・懇親会（対面型）への参加状況

2点目は、まちの駅になって満足している点についてである。「どのような点に満足していますか。」という設問の結果については以下の通りである(表3-1 および図3-4 参照)。

今年度の活動目標でもある交流について見ると、「他のまちの駅の人と交流をもてたこと【1. 交流機会】」と答えた方が48.7%で2番目に多かった。交流をもてたと答えた方の満足度を見ると、「大変満足している」「満足している」と答えた方が76.3%いるのに対し、交流をもてていないと答えた方は39.2%しか満足していないと分かった(図3-5 参照)。このことから、満足度の高いまちの駅では交流が十分にできていると考えられる。

実際に交流の機会となるイベントに参加した方の満足度を見ると、シールラリーや「まちの駅巡り」などのイベントにホスト(受け入れ側)として参加したことのある方のうち、満足しているという方が69.4%であった(図3-6 参照)。まちの駅が関連する物産フェアなどのイベントに販売店として参加したことのある方では77.4%が満足しており、どちらも参加していない方に比べて満足度が高く、イベントへの参加が満足度を高めることに繋がると考えられる(図3-7 参照)。この結果からも、イベントなどによるまちの駅同士の交流が重要であると言える。

ここで、図3-4に戻っていただきたい。満足している点で「売上が増加したこと【4. 売上増】」という選択肢が3.5%で最も少なかったものの、「まちの駅のパフレットにより、自分の事業所(施設・店)の宣伝ができること【5. 宣伝効果】」という選択肢は56.3%と最も多かった。売上を目的としていないまちの駅だが、やはり宣伝効果には嬉しく思っているのだと感じた。しかし、まちの駅同士が盛んに交流し、地域が活気付いて人が集まるようになれば、おのずと各まちの駅の売上にも繋がり、満足度も上がると考える。

さらに、満足している点として、「地域のことを考える機会や地域内で地域を活性化する議論ができる機会が増えたこと【6. 地域活性化】」や「地域に対する愛着が高まったこと【7. 地域への愛着】」と答えた方も多かった。「その他」の自由記述では、地域情報が入ってくるため案内ができるようになった、という意見もあり、そのようなまちの駅が地域活性化のために活動できるように、私たちゼミナール生でもパネルやホームページ、Instagramなどを用いて地域情報を伝える機会を作る必要があると感じた。

表 3-1 まちの駅になって満足している点

1. 交流機会	1. 他のまちの駅の人と交流をもてたこと
2. 訪問客増	2. 訪問客が増えたこと
3. ふれあい	3. 訪問客との会話のきっかけができたこと
4. 売上増	4. 売上が増加したこと
5. 宣伝効果	5. まちの駅のパフレットにより、自分の事業所（施設・店）の宣伝ができること
6. 地域活性化	6. 地域のことを考える機会や地域内で地域を活性化する議論ができる機会が増えたこと
7. 地域への愛着	7. 地域に対する愛着が高まったこと
8. イベント開催	8. イベントなどの開催や参加がしやすくなったこと
9. その他	9. その他
10. なし	10. 満足している点はない。
11. 不明	11. まだ、よくわからない。
不明・無回答	不明・無回答

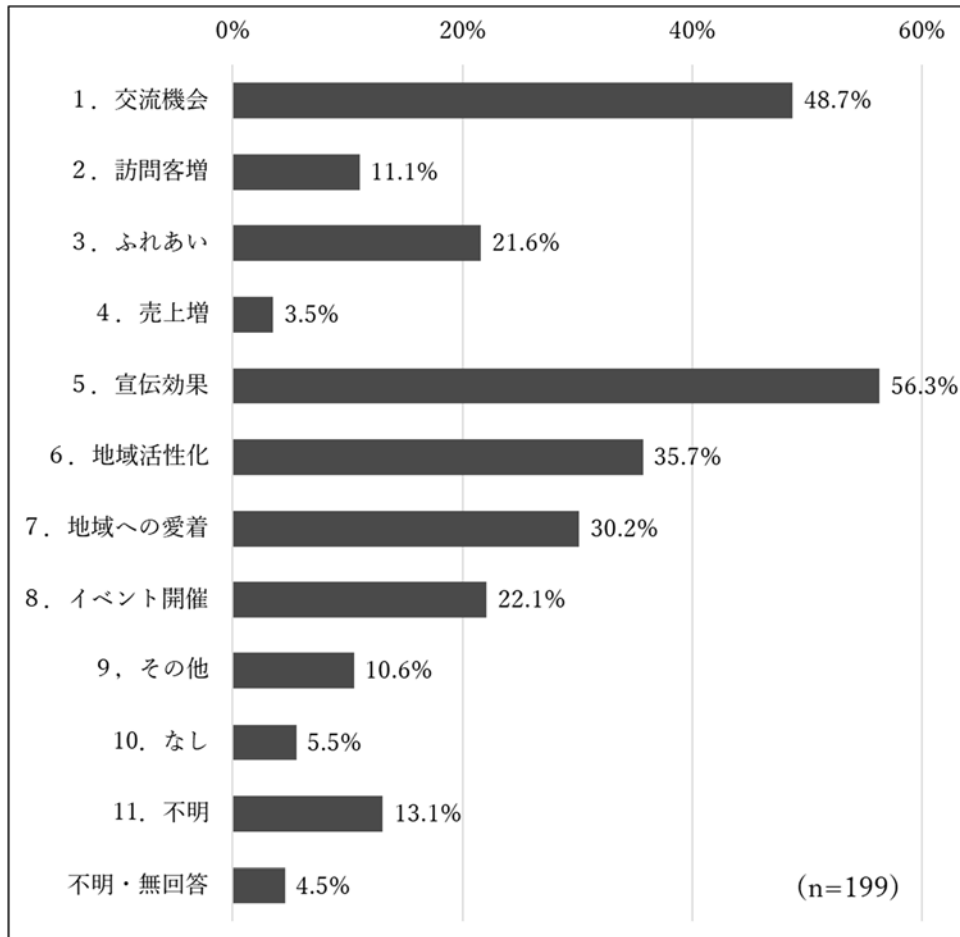


図 3-4 まちの駅になって満足している点

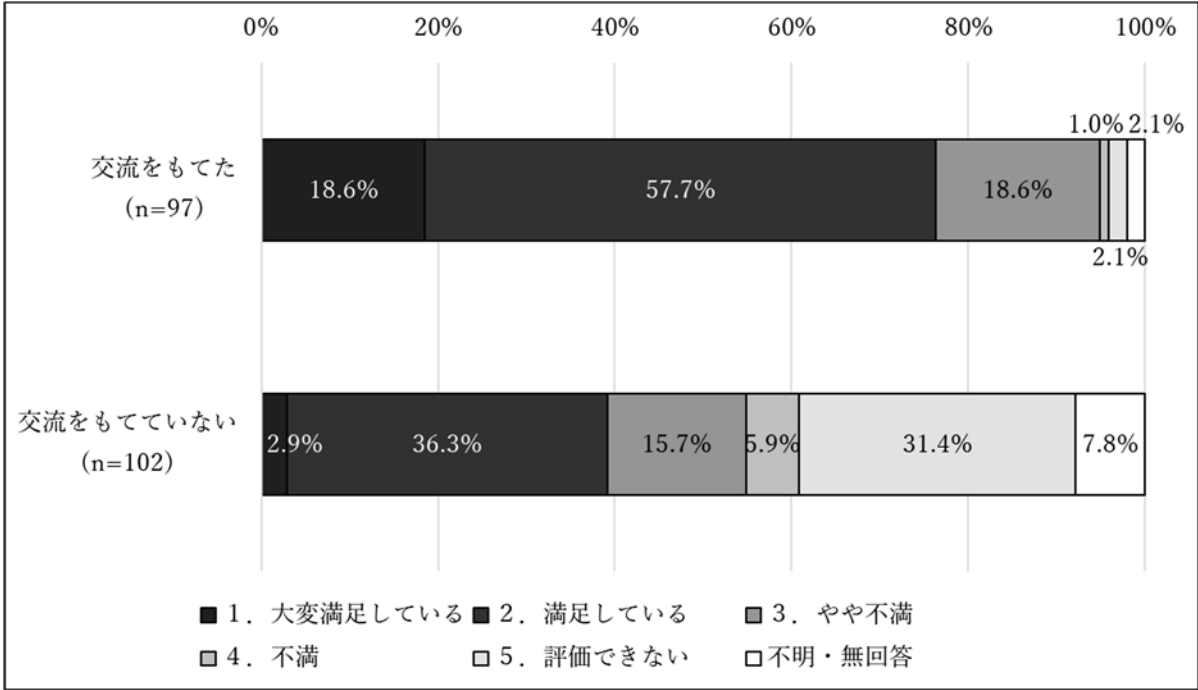


図 3-5 他のまちの駅の人と交流をもてたと答えた人の満足度

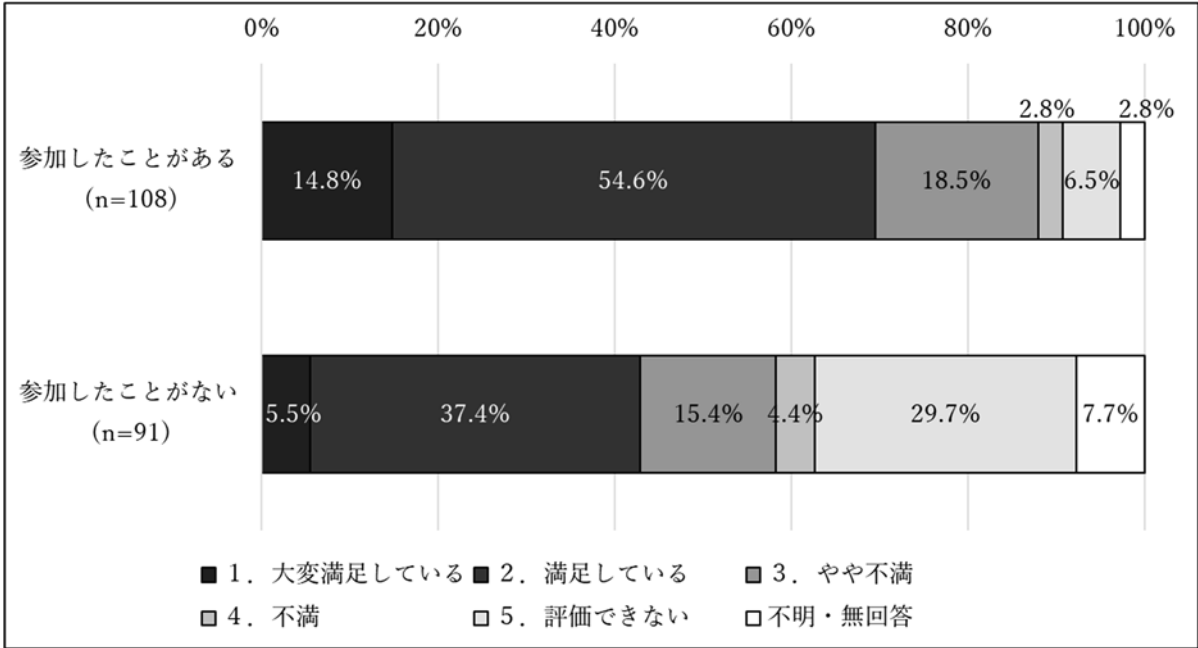


図 3-6 シールラリーや「まちの駅巡り」などのイベントのホスト（受け入れ側）としての参加有無別に見た満足度

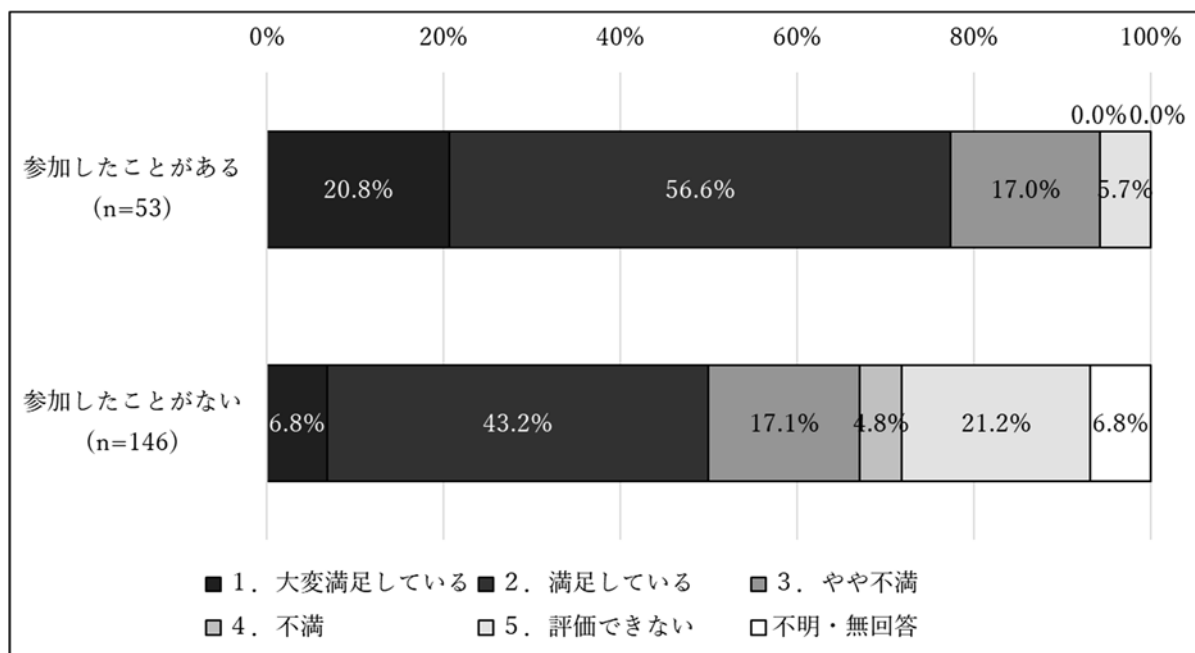


図 3-7 まちの駅が関連する物産フェアなどのイベントへの販売店としての参加有無別に見た満足度

3点目は、まちの駅活動に関する不満な点についてである。「どのような点に不満がありますか。」という設問の結果については以下の通りである（表 3-2 および図 3-8 参照）。

この問いに対し「不満な点はない。【9. 不満なし】」という選択肢が最も多かったが、2番目に多かったのが「売上の増加に貢献できていない。【4. 売上への貢献】」というもので 23.1%であった。満足している点でも示したように、まちの駅としての活動は売上にはあまり繋がっていないのが現状ではあるようだが、やはり、いきなり売上増加を期待して近道をしようとするのではなく、まずは地域を活気付け来訪者を増やすことを重視して活動していくべきだと考える。また、3番目に多かった選択肢が 17.1%の「まだ、よくわからない。【10. 不明】」と同率で「まちの駅に参加した実感がない。【3. 参加実感】」というものだった。

参加実感がないと答えた方のイベントの参加状況を見ると、シールラリーや「まちの駅巡り」などのイベントにホスト（受け入れ側）として参加したことがない方が 64.7%（図 3-9 参照）、まちの駅が関連する物産フェアなどのイベントにお客として参加したことがない方は 97.1%もいた（図 3-10 参照）。この結果から参加実感がない駅ではイベントへの参加も少ないと分かる。自由記述では、年々イベントの参加駅が少なくなっており、さらにイベント参加の少ない駅はまちの駅をやめてしまうこともあるという意見があった。イベントに参加することができれば、他のまちの駅との関わりが生まれ、参加実感も得られると考える。コロナ禍でイベントができにくい状況である今こそ、交流できる場を作る必要性を感じた。

「その他」の自由記述では他にも、活動に新鮮さがなく、他のまちの駅に行ったり商品を買ったりしてみたい、情報共有ができる交流を増やしてほしい、といった意見が見られ、今後の活動の参考として活用できる資料となった。

表 3-2 まちの駅活動に関する不満な点

1. 年会費	1. 年会費が高い。
2. 日程問題	2. イベントに参加したくても日程が合わない。
3. 参加実感	3. まちの駅に参加した実感が無い。
4. 売上への貢献	4. 売上の増加に貢献できていない。
5. デジタル化対応	5. 情報発信や受信が難しい（デジタル化についていけない）。
6. 情報量	6. 情報が少ない。あるいは、情報が来ない。
7. 意見交換の場	7. 意見交換の場が少ない。あるいは、そのような場がない。
8. その他	8. その他
9. 不満なし	9. 不満な点はない。
10. 不明	10. まだ、よくわからない。
不明・無回答	不明・無回答

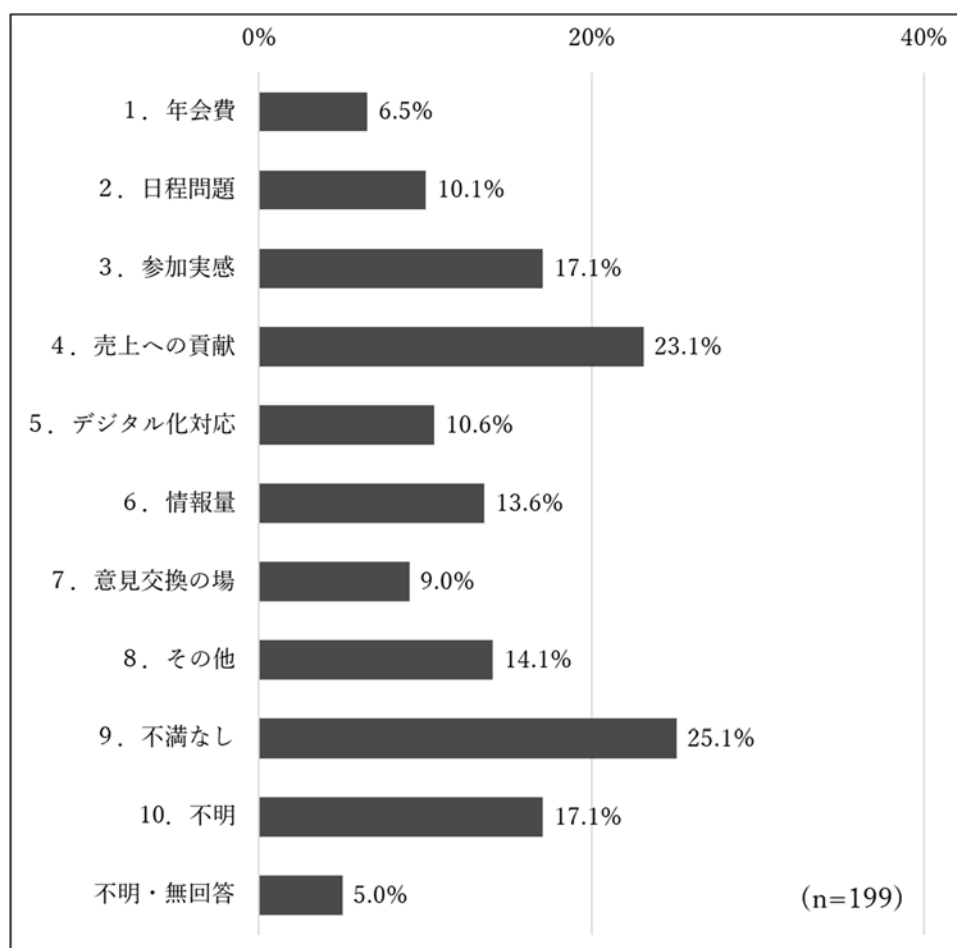


図 3-8 まちの駅活動に関する不満な点

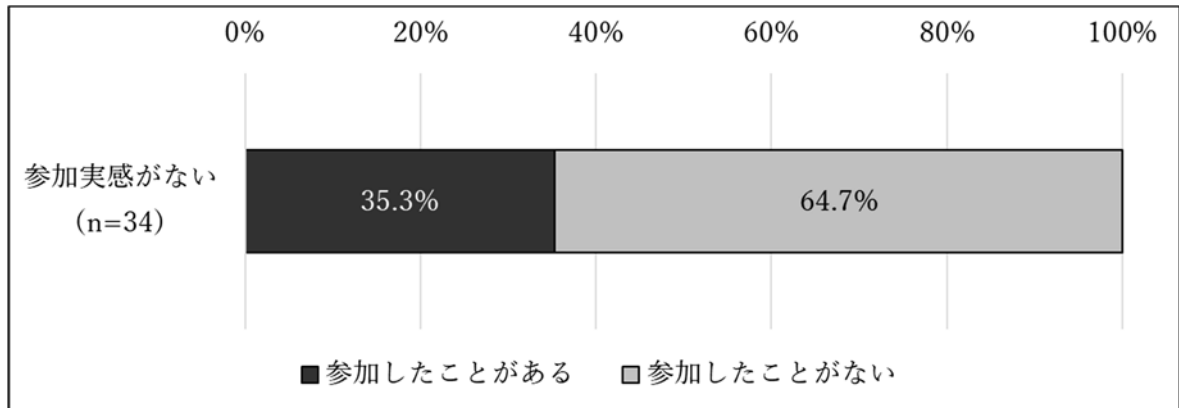


図 3-9 「まちの駅に参加した実感がない。」答えた人の、シールラリーや「まちの駅巡り」などのイベントのホスト（受け入れ側）としての参加状況

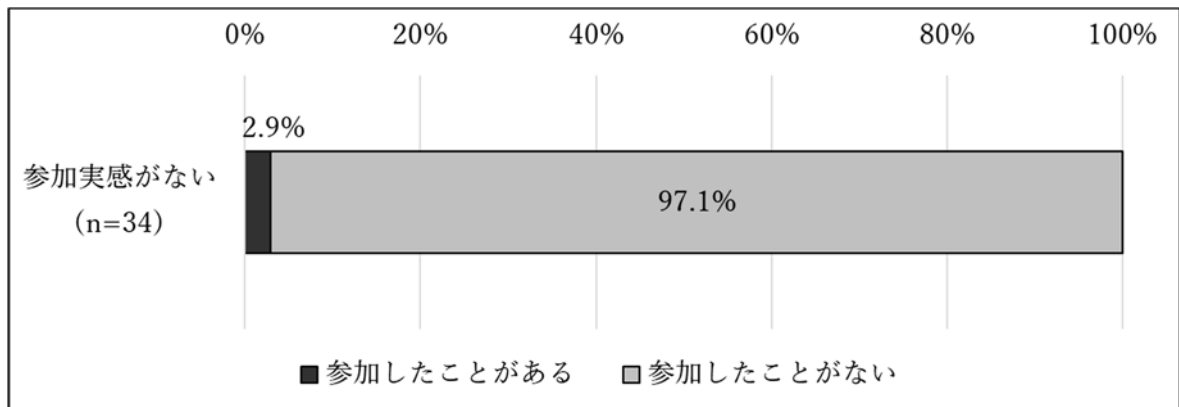


図 3-10 「まちの駅に参加した実感がない。」と答えた人の、まちの駅が関連する物産フェアなどのイベントへのお客としての参加状況

4点目は、Zoomでの交流についてである。「Zoomで他のまちの駅との交流を行いたいと思いませんか。」という設問の結果については以下の通りである（図 3-11 参照）。

コロナ禍で浸透してきている Zoom を使った交流ができないかと考え伺ったが、「参加したくない」もしくは「不明・無回答」と答えた方が 44.3% もおり、多くの参加者は望めないと考えられる。また Zoom の経験有無別に見ると、これまでに Zoom を行ったことがある方のうち「参加したいが自信がない」と答えた方が 14.2% であるのに対し、Zoom を行ったことがない方では 43.4% であった（図 3-12 参照）。この結果から、Zoom を利用する際は最初から一人で行おうとするのではなく、同じ場所で誰かと一緒に行うことのできる環境が必要ではないかと感じた。そのため、新たな交流方法としていきなり Zoom を使うのではなく、まずは対面型を重視した地域内での交流を密にすることが重要であると思われる。地域内で支え合い、その後ネットワーク間での交流へと輪を広げていけば、Zoom での交流も可能になるのではないかと考える。

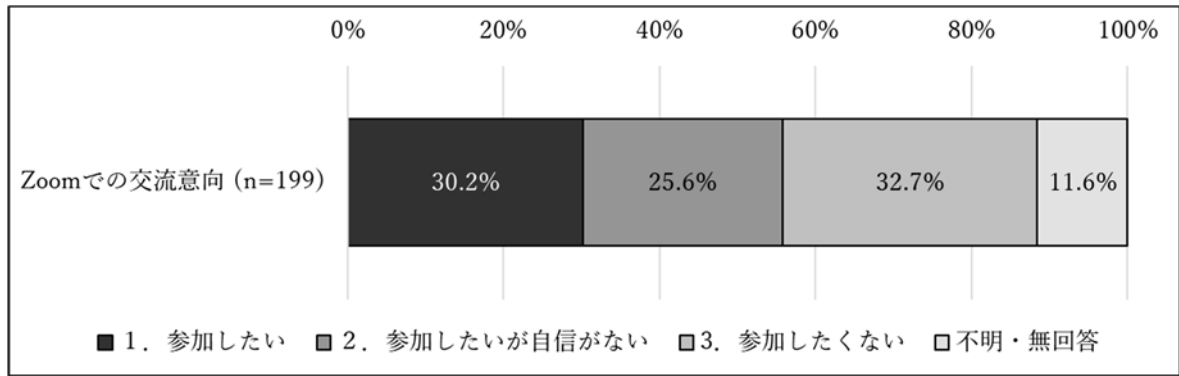


図 3-11 Zoom での交流意向

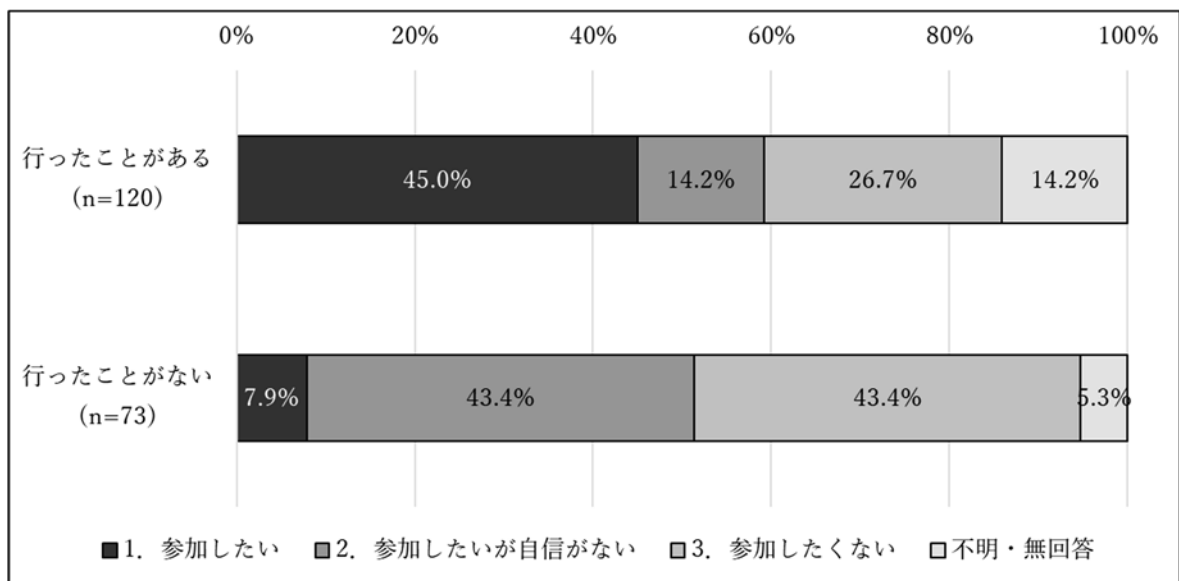


図 3-12 Zoom の経験有無別に見た Zoom での交流意向

3.3. アンケート調査のまとめ

今回のアンケート調査の結果から得られた成果は 2 点ある。1 点目は、まちの駅同士の交流の重要性を再確認できた点である。まちの駅に対する評価や活動状況を伺ったことで、交流が満足度に与える影響を数値として知ることができた。まちの駅としての参加実感を失わないために、交流に重点を置いて活動する必要があると感じた。2 点目は、今後の交流方法を考えるための基礎資料を得ることができた点である。Zoom の利用やまちの駅に対する不満点を知ることによって、どのような交流や活動が必要とされているのか考えるきっかけとなった。今回の調査結果をもとに、それぞれのまちの駅が満足度を高められる交流を私たちゼミナール生で提案し、ネットワークの連携機能を向上させるために活動していきたいと考える。

4. まちの駅への貢献活動とその発信

2つ目の活動目標として、「まちの駅への貢献活動とその発信を通して地域と来訪者を繋げる」ことを目標に活動した。

まちの駅への貢献活動では、ボランティア活動やまちの駅1分間CMの作成、まちの駅紹介パネルの作成と展示会を開催した。さらに、これらの活動をまちの駅全国大会や昨年度開設したInstagramや今年度一新したホームページで発信した。

4.1. 経緯

「まちの駅のあり方を検討する」活動目標1に加えて、今年度は3年生のゼミ生が10人とゼミ生全体の2/3を占めており、遠慮からかゼミの主体ではなくお客さんになる学生も出始めた。そのため、例年行われている活動に対しても目標を掲げることでゼミナールの活動意識の向上を図る必要があった。

4.2. ヒアリング・パネルの作成

今年度は、見附地域で3駅・長岡地域で1駅の計4駅にヒアリング及びパネル作成を行った。

★ながおかまちの駅 令和3年6月30日（水）



★カーライフステーション 令和3年7月6日（火）



★人・農・食の駅 令和3年8月8日（日）



★まちの駅 ネーブルみつけ 令和3年8月27日（金）



4.2.1. パネルの紹介

(1) ながおかまちの駅

「ながおかまちの駅」は長岡市アオーレ長岡にあるまちの駅である。越後ながおかまちの駅ネットワークを取りまとめており、事務局の役割も担っている。今回はパネル写真の差し替えとキャッチコピー作成のため、ヒアリングに伺った。

キャッチコピーは「長岡の情報が集まる駅」です。イベント情報やまちの駅について、他にも長岡に関することを丁寧に教えてくれるため、この名前を付けました。休憩できる場所もあり長岡駅にも近いので、長岡の観光はここから始めてみてはいかがでしょうか。

ながおかまちの駅

アオーレ長岡・市民協働センター

〒940-0062
長岡大手通1-4-10
アオーレ長岡 西棟3階
TEL: 0258-39-2020
FAX: 0258-39-2900
営業時間: 8:00～22:00
休業日: 12/29～1/3

Googleマップより

長岡の情報が丸わかり!

ここは、越後長岡まちの駅ネットワークを取りまとめる、市民協働センターです。
また、役所と市民交流スペースが一緒になった憩いの場所でもあります。
交通の便も大変良く、多くの人を訪れます。
まちの駅の情報だけでなく、イベントの広報やPRなどもしています。

キャッチコピー
「長岡の情報が集まる駅」
イベント情報、まちの駅のこと、休憩できる場所...長岡のことなら何でも教えてくれます。
長岡の観光はここからスタートしてみませんか?

学生のつぶやき
社交ダンスをしたり、学生が集まって勉強をしたり、いろいろな人が利用しています。長岡に来られたら気軽に立ち寄ってみてください。
18K001 赤塚倫子

2021年度編集: 18K001 赤塚倫子

(2) カーライフステーション

今年度のアドバイザーである久住さんにご挨拶を兼ねて、再度ヒアリングに伺った。「カーライフステーション」は、見附市にあるホンダ自動車（有）である。自転車店として創業してからバイクや車も扱うようになり、現在は車に自転車の修理、国産・輸入物の新車や中古車販売とレンタカー事業も行っている。

キャッチコピーは「夢のカーライフを提供する自動車屋さん」です。これはお客様のライフスタイルに合わせて様々な車を選べることから名付けました。

カーライフステーション

【ホンダ自動車有限会社】

見附地域



〒954-0064
見附市葛巻町1208
TEL: 0258-63-3019
FAX: 0258-63-3017
営業時間/9:30~19:00
定休日/木曜日
URL/<http://www.auto-honda.jp>



～まちの駅の情報～

元々は自転車屋さんから始まり、時代の流れと共に、バイク・車を扱うお店になり現在に至っています。国産・輸入車の新車・中古車販売・レンタカーが主流ですが、乗り物のことなら何でもおまかせ！自転車でも修理しちゃいます！

来店客の半分はなんと道案内！見附の道案内などよく行っています！

水垢落としや夏祭りイベント「動けば2万円買取！」、購入者には無料点検など、様々なイベントも開催しています。



車高調で程よくローダウンされた40系ソアラ



タイヤが安い！！



～学生のつぶやき～

道やお店を尋ねるならここにお任せ！！親切な駅長さんが詳しく教えてくれます。ソアラ、インプレッサ、ISなどカッコいい車もそろってます！！

キャッチコピー ～夢のカーライフを提供する自動車屋さん～

お客様のライフスタイルに合わせた車を選べます。レンタカーがあるので、一時的に車が必要という方も利用できます。車の維持費において大きなウェイトを占めるタイヤが安いので経済的！！カッコいい車がそろっているので見ているだけで、購入後のイメージが湧いてきます！！

2021年度編集 吉田和弥

(3) 人・農・食の駅

「人・農・食の駅」は見附地域の農産物を取り扱っているまちの駅である。野菜やお米の他にも雑貨やお惣菜も販売しており、商品ポップはあえて置かず駅長さんとの会話を楽しむことができる心温まる直売所である。駅長さんは地産地消によって食品ロスの削減を目指しており、地域密着を心がけていらっしゃいます。

キャッチコピーは「地元愛！直売所！」です。地元の農産物を通じて人・農・食を繋げ、地元との繋がりも大切にしたいという駅長さんの思いから名付けられました。

見附地域

人・農・食の駅

【地元農産物直売所 みっけセンター】



〒954-0061
新潟県見附市熱田町695-3
TEL：050-7124-3614
営業時間：11：00～18：00
定休日：毎週月曜日

ここは、見附市の農産物を取り扱うちょっと変わった直売所です。
地元農産物を通じて人・農・食を繋げたいという思いが溢れています！！
駅長の奥田さんは人との会話を大切にしています。
目指せ！「楽しくおいしい直売所」

毎日変わる
「今日の一言」



キャッチコピー
「地元愛！直売所！」
駅長さんの人・地元のつながりを大切にしている雰囲気を感じ、このキャッチコピーにしました。



美味しいお米が
1合から購入可能

学生の一言
ポップはなし！聞きたいことは直接店主に聞ける、会話を楽しむ心休める直売所でした。
19k056 高島元輝



2021年度作成：18K001 赤塚倫子

(4) まちの駅 みらい市場

「まちの駅 みらい市場」は見附地域でつくられた特産品を扱うアンテナショップであり、青果や総菜に留まらず民芸品から婦人服まで幅広く販売しています。同施設内の「ネーブルみつけ」もまちの駅として活動しており、そこに来たお客様が思わず覗いてしまうような魅力的な品物を取り揃えています。

キャッチコピーは「みつけの良いもの、ここにある」です。販売する品物は見附産にこだわり、作り手の思いを使い手に伝え見附の魅力を再発見する、そんな出会いを提供していきたいという思いが込められています。

見附地域 まちの駅みらい市場

【みらい市場】

みらい市場とは？
みらい市場は、約90店舗の見附市特産品を販売するアンテナショップです。
駅名は、ギュッと集めた見附の自慢を「“見” 附に “来” て確かめてほしい。」という思いから「みらい市場」という名が付いたそうです。

当駅のキャッチコピーは、
「みつけの良いもの、ここにある」です！
多くの見附の特産品が集まっている「みらい市場」では、見附の魅力を発見できます。ぜひ、みなさんも行かれてみては？

レジ 酒
物産
ニット
健康野菜

〒954-0052
見附市学校町1-16-15
ネーブルみつけ1階
TEL: 0258-62-7877
営業時間 9:00~18:00
休館日 年末年始
ネーブルみつけ休館日
HP: <https://r.goope.jp/miraiichiba>

学生のつぶやき
~みつけの良いものあつめました~
見附の名産ニット、地域の物産、新鮮な農産物！地物が集まっています！施設内には広い休憩スペースもあります。ゆったり寛ぐことが出来る素敵な駅です！
19K025 尾身萌々花

2021年度編集 18K033木下歩美 19K025尾身萌々花 19K106山井良海 19K112吉田和歌

4.3. まちの駅パネル展

昨年度に引き続き悠久祭が中止となってしまう、パネル展を行うことができなかった。そこで、例年開催しているながおか市民協働センターと今年度新たに開催することとしたネーブルみつけの2箇所で行った。

(1) 場所、日時、展示地域・枚数

場所	日時	展示した地域
ネーブルみつけ	8月10日(火)～ 9月20日(月)	見附地域 計41駅のパネル
ながおか 市民協働センター	8月17日(火)～ 8月31日(火)	長岡地域・栃尾地域・寺泊地域・ 与板地域・和島地域・三島地域・ 越路地域・小国地域・川口地域・ 山古志地域・中之島地域 計50駅のパネル



4.4. 地域貢献活動

4.4.1. まちの駅&どまいち 春の物産フェア

(1) 日時

令和3年3月14日(日) 9:00~15:00

(2) 場所

まちの駅 ネーブルみつけ

(3) 主催

まちの駅ネットワークみつけ

(4) 主な仕事内容

イベント運営のボランティアスタッフとして、県外物産品売り場でのレジの会計補助・販売を行った。

(5) まとめ

コロナ禍ではあったが、検温・消毒、入場者制限、会場内での飲食禁止等の対策を行いながらの開催となった。参加学生は、主にレジの補助を行った。県外の物産品を販売していたため、多くのお客様が普段手に取ることができない品物をお買い求めになっていた。



4.4.2. 花はすボランティア

(1) 概要

上通小学校の児童が中之島地域の特産物「大口れんこん（花はす）」の魅力を伝えるために、花はすを育て展示を行っている。今年度もその花はすの管理ボランティアに参加した。活動内容は、花はすの水やりと水鉢に浮かんでいる草を取り除き綺麗にするものである。

(2) 日時

令和3年7月20日（火）、7月28日（水）、8月6日（金）

(3) 場所

アオーレ長岡

(4) まとめ

昨年は上通小学校の児童と予定が合わず、はすの水やりを一緒にできなかったが、今年は8月6日に一緒に水やりをすることができた。炎天下での作業はとても暑く大変だったが、はすがきれいに咲いてくれることを願いながら、水やりと草取りを行った。初回の作業の際には、まだ花はすは咲いていなかったが、後日綺麗なピンク色の花を咲かせていて、やりがいを感じた。



4.5. まちの駅 1 分間 CM

(1) 概要

まちの駅をフィールドとして調査・研究を行っているゼミ生が昨年度に引き続き、まちの駅の魅力を 1 分間の CM として『FM ながおか』で紹介する活動である。越後ながおかまちの駅ネットワーク参加駅のうち 6 駅に改めてヒアリング取材を行い、パネルの更新とともにラジオ原稿を作成した。

(2) 事業目的

この事業の目的は、次の 3 つである。

- 「まちの駅」の認知度向上を目指し、身近で利用しやすいコミュニティの場であることを周知する。
- 「まちの駅」関係者へのヒアリング取材を通して、「まちの駅」それぞれの魅力や特徴を改めて認識する。
- 放送する時間帯を限定させず、広い時間帯で流すことにより幅広い層に「まちの駅」を訴えかける。

(3) 取材先のまちの駅

駅名	店名
① まちの駅 あんたや	(有) 安田屋
② 栃尾まちの駅 とちパル	栃尾紅葉門前商工プラザ
③ まちの駅 JAZZ 楽	魚楽 (ぎょらく)
④ まちの駅 伊丹	洋品の伊丹
⑤ 越後長岡酒と味の駅	(有) 佐田酒店
⑥ まちなか酒の駅	山崎酒店

(4) 放送について

以下の日程により、6 月 21 (月) から平日 7 時 29 分、13 時 59 分、16 時 59 分の一日 3 回ずつ 2 週間で合計 30 回放送された。

放送日	放送時間	種類	回数
6/21 (月)	7:29	まちの駅 あんたや	1
	13:59	栃尾まちの駅 とちパル	2
	16:29	まちの駅 JAZZ 楽	3
6/22 (火)	7:29	まちの駅 伊丹	4
	13:59	越後長岡 酒と味の駅	5
	16:29	まちなか酒の駅	6
6/23 (水)	7:29	まちなか酒の駅	7
	13:59	越後長岡 酒と味の駅	8
	16:29	まちの駅 伊丹	9

6/24 (木)	7:29	まちの駅 JAZZ 楽	10
	13:59	栃尾まちの駅 とちパル	11
	16:29	まちの駅 あんたや	12
6/25 (金)	7:29	まちの駅 JAZZ 楽	13
	13:59	まちの駅 あんたや	14
	16:29	栃尾まちの駅 とちパル	15
6/28 (月)	7:29	まちなか酒の駅	16
	13:59	まちの駅 伊丹	17
	16:29	越後長岡 酒と味の駅	18
6/29 (火)	7:29	栃尾まちの駅 とちパル	19
	13:59	まちの駅 JAZZ 楽	20
	16:29	まちの駅 あんたや	21
6/30 (水)	7:29	越後長岡 酒と味の駅	22
	13:59	まちなか酒の駅	23
	16:29	まちの駅 伊丹	24
7/1 (木)	7:29	まちの駅 あんたや	25
	13:59	栃尾まちの駅 とちパル	26
	16:29	まちの駅 JAZZ 楽	27
7/2 (金)	7:29	まちの駅 伊丹	28
	13:59	越後長岡 酒と味の駅	29
	16:29	まちなか酒の駅	30

(5) まとめ

今回の活動を通して、改めて「まちの駅」の魅力を知ることができた。また、ラジオを通じた「まちの駅」の認知度向上を目指すなかで、言葉で伝えることの難しさを痛感した。

ラジオは、言葉の選定や表現の仕方が重要になってくる。1分間という短い時間で、思わず、紹介された駅に行きたくなるような魅力の伝え方をしなければならない。そのため、改めて行ったヒアリング取材では、各まちの駅の特徴や魅力を再認識することに注視するなかで活動意識の向上につながった。

今後は、ヒアリング取材等の活動を通して事業目的が達成できているのか調査していきたいと考える。

(6) 協力

越後ながおかまちの駅ネットワーク
NPO 法人市民協働ネットワーク長岡
FM ながおか

(7) 企画名

長岡大学プレゼンツ☆まちの駅1分間CM企画

4.6. Web ページの制作

(1) 概要

今年度は、本学の Web ページリニューアルに伴い、今までの Web ページの掲載が困難になったため、Ameba Ownd を利用し鯉江ゼミナールの Web ページの制作を行った。

そこでは鯉江ゼミナール生が平成 19 年度から作成している活動報告書及び県内にある約 130 駅のまちの駅紹介パネルを閲覧できる。また、新たに留学生による母国紹介ページを制作し掲載した。

このページは長岡大学の Web ページに繋がれており、「メニュー」→「大学情報」→「まちの駅長岡大学」→「鯉江ゼミナールまちの駅紹介」の順でアクセスすることができる。

長岡大学 (HP) <https://www.nagaokauniv.ac.jp/>

長岡大学 鯉江ゼミナール (HP) <https://koie-seminar.amebaownd.com/>



(2) 掲載内容

(2-1) まちの駅とは

まちの駅の概要を紹介すると共に、より詳しいまちの駅の情報が見られる「全国まちの駅連絡協議会」の公式サイト「まちの駅」へのリンク機能が付いている。

(2-2) 県内のまちの駅のリンク

新潟県内でまちの駅ネットワークを形成している「越後長岡まちの駅ネットワーク」「まちの駅ネットワークみつけ」へのリンク機能を付けている。

(2-3) これまでの活動概要

平成 19 年度から令和 2 年度までの各年度活動報告書を一覧で紹介している。

(2-4) パネル紹介

今年度に作成したパネルを含め、これまでに作成してきたまちの駅パネルを紹介している。地域ごとに検索ボタンから鯉江ゼミナールの Google ドライブにて共有することで、パネルを PDF ファイルとして閲覧することができる。

(2-5) ラジオ

越後長岡まちの駅ネットワークと FM ながおかと協働して制作したラジオ CM を紹介している。平成 30 年度から制作された 3 年分のラジオ CM を聴くことができる。

(2-6) 母国紹介ページ

ゼミナールに所属している留学生による母国紹介を行っている。母国の文化だけではなく、食事や生活様式などを写真や動画を使って紹介している。

(2-7) Instagram

鯉江ゼミナールのInstagramアカウントと連携することで、WebページからもInstagramの投稿を閲覧することができる。

(2-8) ブログ記事

Webページを一新したことによる新たな試みとして、ブログ記事を投稿している。パネル展示会やまちの駅のイベントに参加した様子などを、学生目線で綴っている。



4.7. Instagram による広報活動

(1) 概要と経緯

ヒアリングに伺ったまちの駅の紹介、ゼミナール活動の紹介、作成パネルの紹介などを行いまちの駅の認知度向上を図る目的で、鯉江ゼミナール公式の Instagram アカウントを開設している。

毎年鯉江ゼミナールはまちの駅と交流し、まちの駅を知ってもらうべくボランティア活動に参加するなど、様々なアプローチを行ってきた。しかし、「まちの駅の認知度が低い」というゼミナール生の共通認識から、昨年度は地域活性化を目指すためには、まちの駅の機能や私たちの活動を知ってもらうことが最大の課題であると考え、SNS を使った広報活動を行った。

(2) 活動内容

(2-1) 投稿とアカウント管理について

投稿内容は以下の通りである。

- 鯉江ゼミナールの活動紹介（ヒアリング、パネル展、成果発表会など）
- 作成パネルの投稿（新駅パネル、更新パネル）
- まちの駅の紹介

以上の内容を Instagram 特有のタグ（例：#新潟県#まちの駅など）を使い、数多くの人の目に留まるように文章を作成し写真と共に投稿している。Instagram アカウントは学生自身が管理し、投稿も学生自身で行っている。

(2-2) 「フォロワー」数について

Instagram は、自分自身の投稿をどれくらいの人が閲覧したかを確認する「アクセス数」がわからない。今回は、「フォロワー」と「いいね」の数で広報活動がどの範囲に影響を与えているかを判断する。現在、フォロワーは昨年の 21 人から増加し 76 人となっている。

(3) まとめ

これからも鯉江ゼミナールの活動紹介ならびに、まちの駅の紹介や作成したパネルの投稿を行っていきたいと考えている。

昨年度からこの活動を引き継ぎ、投稿を続けてきた結果、グッド数、フォロワー数は増加し一定の成果がでている。だが、最近の投稿では、活動内容を報告するだけの地味な内容になっている。より認知度を上げるためには、活動の様子を投稿するにあたって、更に Instagram の特性を生かし、読み手を魅了する工夫が必要になる。写真の加工や文章などで、多くの読み手の目を引き、興味をもってもらうような構成にしなければならない。

これからはより Instagram を有効に活用した広報活動を続け、まちの駅の認知度向上に寄与していきたいと考えている。

4.8. 第 23 回まちの駅オンライン全国大会

(1) 概要

「まちの駅」は、トイレを無料で利用できる“休憩機能”、まちの案内人が地域の魅力を伝える“案内機能”、人と人が出会う“交流機能”、まちの駅同士がネットワークで繋がる“連携機能”、の 4 つの機能を持つ街なかのふれあい拠点である。

「まちの駅全国大会」は、全国のまちの駅メンバーが一堂に会って、情報交換と親睦を図るために毎年開催されている。本年度は当初見附で開催される予定であったが、コロナの影響で、オンラインでの開催となった。

(2) 開催日時および参加場所

令和 3 年 11 月 9 日(火) 長岡大学 第 5 会議室

詳細は、＜参考資料 2＞『第 23 回まちの駅オンライン全国大会（パンフレット）』を参照されたい。

(3) 参加目的

鯉江ゼミナールでは平成 19 年度より「まちの駅」を対象として調査・研究を行っている。また、長岡大学はまちの駅となっており、全国大会にはまちの駅に携わる一員として参加した。

今回は、コロナウイルス感染拡大の影響により、まちの駅ネットワークみつけが計画・準備し、初めてオンライン開催を行った。全国大会を通じて各駅の取り組みや現状、課題点を把握し、次の活動に活かせるようにと考えた。加えて、全国のまちの駅仲間と交流の輪を広げることも目的とした。

(4) まとめ

今回のまちの駅オンライン全国大会への参加は、各地域のまちの駅の現状や取り組みを知る貴重な機会となった。また、ゼミの活動を紹介する場をいただけたことは非常に感謝している。それによって、アンケート結果への期待が大きいこともわかった。結果については今後ホームページに掲載する。

さらに、オンラインでも交流会ができるということもわかった。オンラインであれば移動の手間が無いと、効率よく話し合いができる。Zoom を使うことで、定期的に交流会を開くことができるため、まちの駅同士の交流が増え情報交換の場となる。しかし、アンケートで Zoom での交流会に参加したいかお聞きしたところ、「参加したくない」や「不明・無回答」の方が約 4 割いた。また「参加したいが自信がない」と答えた方も多く、業態や年齢層によっては多くの参加者は望めない。新たな交流方法としていきなり Zoom を使うのではなく、まずは対面型を重視した地域内での交流を密にする必要がある。それからネットワーク間での交流へと輪を広げていけば、Zoom での交流も可能となり、連携機能の向上に繋がると感じた。

4.9. 成果発表会

(1) 日時

令和3年12月4日(土) 12:45~18:00

(2) 会場

ホテルニューオータニ長岡 NCホール

(3) 発表内容及びアドバイザー

『コロナ禍における「まちの駅」の新たな交流・連携のあり方を考える』

まちの駅ネットワークみつけ 代表 久住幸靖 氏

NPO 法人市民協働ネットワーク長岡 コーディネーター 太田道子 氏

(4) 開催内容

地域活性化プログラムに参加するゼミナールの今年度活動の成果を13分で発表する。

(5) まとめ

今回の成果発表会に向けて多くの課題があった。そのひとつが今年行ってきた活動に対する考察をアピールすることである。

中間発表会では、成果発表会に向けて今年行った活動の全てを発表した。アドバイザーの方々とパワーポイント、原稿の内容を確認した。確認の際に、アドバイザーの久住氏から「アンケート調査での考察をする時に、少人数で行っていたため、様々な視点で見ることが出来ていない」、「頂いた意見の中に、満足の反対は不満足ではなく、無関心である」と教えて頂いた。また、アドバイザーの太田氏から「コロナ禍におけるまちの駅の交流連携のあり方を考えるとあったが発表内容が表題とあっていない」と指摘を頂いた。パワーポイントや原稿を改めて練り直した。発表時間である13分を超えたため、ボランティアやパネル展のスライドを短くし、今年のゼミナール活動で力を入れたアンケート調査のスライドを深く広くした。原稿を読むスピードや発声などを工夫するように意識してたくさん練習を行った。そのため、ゼミナール生一同が自信をもって発表することができ、時間をしっかりと13分以内に収めることができた。

成果発表会では中間発表会での指摘をしっかりと改善することができた。アドバイザーの久住氏から「アンケート調査の考察を多方向から考察されていた」、太田氏から「コロナ禍で自分たちでも難しい連携をとり、アンケート調査を行ったことにより、現状を可視化することが出来た」とお褒めの言葉を頂けた。発表の練習をたくさん行ったので、問題もなかった。今回の活動を通して、ゼミナールの1年間の振り返りができたとともに、聞いてくださった方々に「まちの駅」のこと、どのような活動をしてきたのかを知っていただくことができた。

来年度は今年度行ってきた活動を有効に活用できるように、アドバイザーの方々と全国のまちの駅の駅長さんとの連携・情報・発信をしっかりと行い、まちの駅のあり方を多くの方々に知っていただきたい。そのため、コロナ禍でも可能な新たな活動を発見し、実行し、チェックし、成果をあげ、来年度以降の成果発表会で示していきたい。

5. まとめ

5.1. 今年度の活動成果

今年度は、昨年度に続き新型コロナウイルス感染拡大に伴う感染対策を行いながらの活動となった。今年度のテーマは、『コロナ禍における「まちの駅」の新たな交流・連携のあり方を考える』である。具体的には、これまでの「まちの駅」へのヒアリング活動を通して感じていた、まちの駅同士の交流や連携機能における課題を改善する方策を探ることである。そのための主な活動は、まちの駅オンライン全国大会への参加や7つのまちの駅ネットワークを対象とした大規模アンケート調査の実施である。さらに、活動目標を明確化するために、活動目標1「まちの駅のあり方を考える」と活動目標2「まちの駅への貢献活動とその発信を通して地域と来訪者を繋げる」の2つに分けた。

活動目標1では、まちの駅としての満足度と交流や連携機能の関係性を知ることができたと感じる。これまで課題に感じていた「まちの駅同士の交流・連携機能の現状」と「まちの駅としての満足度の低さ」にスポットを当てたことで、両者の関係性と実態を明確に数値化することができた。今までは、新潟県内の新駅にヒアリングを行い、パネルを作成するルーティンができていた。しかし、7つのまちの駅ネットワークを対象とした大規模アンケート調査を行ったことで私たちが把握していなかったまちの駅の課題や現状を共有することができた。また、活動テーマとした『コロナ禍における「まちの駅」の新たな交流・連携のあり方を考える』ための基礎資料を得ることができたと考える。

活動目標2では、例年行っている活動に目標を掲げたことで、まちの駅の共通テーマ「人と人の出会いと交流をサポートするまちの情報発信拠点」を再認識することができた。また、今年度オンラインで開催されたまちの駅全国大会に参加したことで、発信活動による反響をその場で得られたことはゼミナール生のモチベーションアップにもつながった。ゼミとしての役割を考える契機となり、まちの駅とともに地域活性化を目指すなかで、次年度はまちの駅同士を繋げる役割を担うことを目標に考えている。

全体の活動を通して、次年度につながる基礎資料を得る活動ができたと考える。アンケート調査で得たデータは、今後の活動において課題の明確化や課題解決のための企画考案の際に一つの指標となるだろう。また、今年度一新したゼミナール生が運営するホームページが、更なる発信活動に寄与することだろう。ホームページでは、今までの活動紹介に加えて留学生による母国紹介やブログ記事の投稿などさまざまな形でゼミ活動を発信していく。インスタグラムとも連携し、タイムリーな情報発信を行っていくことで情報の周知に相乗効果を期待している。また、閲覧数やフォロワー数、「いいね」の数など顕在的な成果の現れに投稿頻度の上昇にも期待している。

また、ゼミナール内での成果となるがゼミナール生で中期目標と長期目標を立てて仕事を分担できたことは大きな成果である。今年度の前期では、ゼミナール生の人数が多かったことから仕事の分担に偏りが生じた。その反省を踏まえ、後期から役割を分担することで見落としの少ない活動ができた。次年度は、分担によるメリット・デメリットを踏まえた円滑かつ正確な活動の割り振りができればよいと考える。

5.2. 来年度の活動

主に二つのことを目標に行っていこうと考える。

一つ目は、ゼミでまちの駅同士を繋げる役割を担うことである。ゼミナール生が中心となり、各まちの駅を巻き込んだ活動を行うことでまちの駅同士を繋げる役割を担っていきたいと考える。今年度のアンケート調査の結果より、Zoomなどのオンライン開催に多くの参加者を望めないという結論に至ったことから対面で行える小規模のイベント開催から始めたいと考えている。例えば、交流イベントの一つとしてネットワークごとに私たちが作成したパネルのグランプリを決めるコンテストを開催したいと考えている。その後、ネットワーク間でのイベント開催を試みることで交流の輪を広げていけたらよいと考えている。また、例年行っているパネル展示会も引き続き行っていきたいと考えている。これらの活動は、引き続きインスタグラムやホームページで発信していく。

二つ目は、コロナ禍でのさらなるまちの駅の交流・連携機能の向上である。今年度の活動を通して、まちの駅の共通テーマである「人と人の出会いと交流をサポートするまちの情報発信拠点」の再認識に重要性を見出した。コロナ禍というイベント開催が未だ困難であるなか、ゼミナール生が先陣を切った新たなイベントの企画考案・実施を試み、人と人の出会いと交流をサポートする機会につなげていきたいと考えている。これまで行ってきた活動を継続するとともに、新たな活動を考案・実施していくことでコロナ禍であっても状況に応じた地域を活気づけられる活動のあり方を模索していく。

昨今、新型コロナウイルス感染拡大による影響で人々の暮らしのあり方も変化してきている。私たちは、まちの駅とともに地域の活性化を目指していく上で、この状況の変化に適応していかなければならない。今年度のように、コロナ禍におけるまちの駅の新たな交流・連携のあり方を考え、まちの駅の共通テーマ「人と人の出会いと交流をサポートするまちの情報発信拠点」を達成するために、私たち鯉江ゼミナールはまちの駅同士を繋げる役割を担うことを目指していく。そして、まちの駅とともに地域を活気づけられる支えになれるように、これからも一丸となって活動を続けていく。

<謝 辞>

最後に、お忙しい中、私たちの活動にご協力していただいた「まちの駅ネットワークみつけ 代表」の久住幸靖様、「NPO 法人 市民協働ネットワーク長岡コーディネーター」の太田道子様を始め、アンケート調査にご協力いただいた「まちの駅ネットワーク」の皆様、ヒアリング・パネル作成にご協力いただきました「まちの駅」関係者の皆様、まちの駅1分間CMの制作にご協力いただきました「FM ながおか製作部」の山田光枝様、誠にありがとうございました。

また、日頃の活動のサポートをしていただいた長岡大学の教職員の皆様にも厚く御礼申し上げます。

<参考文献>

文献1：全国まちの駅連絡協議会「まちの駅 (<http://www.machinoeki.com/>)」
令和3年12月閲覧

文献2：国土交通省「道路：道の駅案内—国土交通省」
(<https://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/index.html>) 令和3年12月閲覧

<参考資料1> まちの駅のあり方に関する調査(調査票及び単純集計結果)

まちの駅のあり方に関する調査

令和3(2021)年10月吉日
長岡大学 鯉江ゼミナール

長岡大学鯉江ゼミナールでは、平成19年度から、まちの駅をフィールドとした調査・研究を行ってきました。これまでは、新潟県内にある約130の「まちの駅」の紹介パネル作成、長岡・見附地域のまちの駅関連イベントのお手伝い、まちの駅交流会の企画・実施・参加、まちの駅全国大会への参加など多くの活動をしてきました。

しかしながら、昨年度(令和2年度)以降は新型コロナウイルスの影響で多くの活動ができにくくなっております。そこで、本年度はまちの駅の方々の満足度を調査することにより、どのような方向性がまちの駅を活性化し、さらに、コロナ禍における交流・連携のあり方を模索すべく、全国のまちの駅(約500駅を抽出)を対象にアンケート調査を実施することにいたしました。

お忙しいところ大変恐縮ですが、ご協力くださいますようお願いいたします。調査票の記入を終えた後は、同封の返信用封筒に入れて、**10月22日(金)**までに郵送してください。

なお、ご記入いただいた回答については個人が特定されることのないよう集計すると共に、個人情報については本調査・研究に関わる目的のみに使用し他の目的には使用いたしません。

<お問い合わせ先>

〒940-0828 新潟県長岡市御山町80-8 長岡大学 鯉江研究室

Tel 0258-39-1600(代表) Fax 0258-39-9566

E-mail koie@nagaokauniv.ac.jp

【問1】 貴まちの駅、および、あなた自身についてお伺いいたします。

まちの駅名 (施設・店名等)	(施設・店名等)
(ふりがな)	
ご回答者氏名	
まちの駅認定証に書かれている認定年月日	平成・令和 年 月 日
住 所	〒
電話番号	()
FAX 番号	
E-mail	

認定年集計結果 (n=199)

2000年～2009年	25.6%	2010年～2014年	12.1%	2015年～2019年	28.1%
2020年～2021年	5.0%	不明・無回答	29.1%		

【問2】 あなたのまちの駅は、どのような施設ですか。(1つだけに○) (n=199)

1. 飲食店 (10.1%)
2. 商業施設・工場 (商店、物産販売所、自動車販売店、住宅展示場など) (31.2%)
3. 美・理容院 (2.5%)
4. 役所ないしはその出先機関 (市民センターなど)・組合 (農協、鉄工組合など) (10.6%)
5. 公園・スポーツ施設・レクリエーション施設 (3.0%)
6. 文化施設 (博物館、美術館、資料館など) (4.5%)
7. 宿泊施設・日帰り温泉施設 (ホテル、旅館、温浴施設など) (7.0%)
8. 医療・福祉施設 (病院、老人ホームなど) (5.0%)
9. 観光案内所・マスメディア (5.0%)
10. その他 ※業種名等を具体的にお書きください。(21.1%)
()

【問3】 あなたやあなたのまちの駅のメンバーが参加したことがあるイベントについてお伺いいたします。(該当するすべてに○) (n=199)

1. 全国大会の主催者側としての参加 (19.1%)
2. 全国大会への参加 (主催者側としての参加は除く) (22.1%)
3. シールラリーや「まちの駅巡り」などのイベントのホスト (受け入れ側) としての参加 (54.3%)
4. シールラリーや「まちの駅巡り」などのイベントへのお客としての参加 (16.6%)
5. まちの駅が関連する物産フェアなどのイベントへの販売店としての参加 (26.6%)
6. まちの駅が関連する物産フェアなどのイベントへのお客としての参加 (20.1%)
7. 貴まちの駅が所属するネットワークの総会や研修会などへの参加 (61.3%)
8. 自地域のまちの駅ネットワーク内での交流会・懇親会への参加 (対面型での参加、全国大会は除く) (51.3%)
9. 自地域のまちの駅ネットワーク内での交流会・懇親会への参加 (Zoomなどの遠隔型での参加) (12.1%)
10. 他地域のまちの駅ネットワークとの交流会・懇親会への参加 (対面型での参加、全国大会は除く) (16.1%)
11. 他地域のまちの駅ネットワークとの交流会・懇親会への参加 (Zoomなどの遠隔型での参加) (8.0%)

12. その他 ※イベント内容等を具体的にお書きください。(9.0%)

()
()
()

13. 参加したことはない。(16.6%)

(不明・無回答 1.0%)

【問4】貴まちの駅(ないしは、あなた)についてお伺いいたします。(各設問のあてはまるもの1つに○) (n=199)

(1) パソコン(タブレットを含む)を利用していますか。

1. 利用している(91.0%) 2. 利用していない(8.5%) (不明・無回答 0.5%)

(2) 利用しているパソコンにはカメラとマイクが付いていますか。

1. ついている(60.3%) 2. ついていない(26.1%)
3. わからない(6.0%) (不明・無回答 7.5%)

(3) スマホを利用していますか。

1. 利用している(80.4%) 2. 利用していない(17.1%)
(不明・無回答 2.5%)

(4) インターネットを利用していますか。

1. 利用している(93.0%) 2. 利用していない(5.5%) (不明・無回答 1.5%)

(5) メールのやり取りはできますか。

1. できる(89.4%) 2. できない(8.5%) (不明・無回答 2.0%)

(6) これまでに Zoom を行ったことはありますか。

1. ある(60.3%) 2. ない(38.2%) (不明・無回答 1.5%)

(7) これまでに Zoom で主催者側として開催したことがありますか。

1. ある(17.6%) 2. ない(79.9%) (不明・無回答 2.5%)

(8) Zoom はパソコン・スマホに無料でダウンロードできます。Zoom は管理者になれば、管理者から伝えられたミーティングID(10桁程度の数字)とパスワードを入力すれば、簡単に参加できます。Zoom では複数の人と双方向で会話や動画等のやり取りができますが、Zoom で他のまちの駅との交流を行いたいと思いますか。

1. 参加したい(30.2%) 2. 参加したいが自信がない(25.6%)
3. 参加したくない(32.7%) (不明・無回答 11.6%)

5. 情報発信や受信が難しい（デジタル化についていけない）。(10.6%)
6. 情報が少ない。あるいは、情報が来ない。(13.6%)
7. 意見交換の場が少ない。あるいは、そのような場がない。(9.0%)
8. その他 ※できるだけ、具体的にお書きください。(14.1%)
()
()
()
9. 不満な点はない。(25.1%)
10. まだ、よくわからない。(17.1%)
(不明・無回答 5.0%)

ご協力ありがとうございました。



第23回まちの駅オンライン全国大会

コロナに負けるな！全国のまちの駅仲間とオンラインでつながろう！！

今年は、まちの駅としては初めてのオンライン全国大会ですよ。

プログラムは「まちの駅ネットワークみつけ」が計画・準備してきたものを活かします。

オンライン会議ですので、都合に合わせた参加も可能です。全国の各地のまちの駅仲間と交流の輪を広げましょう。

開催日：令和3年11月9日（火） フォーラムの部 13：00～17：00
オンライン交流会 17：30～19：00

形式：Zoomによるオンライン方式（定員300人）※申し込み後にURLを通知

参加費：無料

プログラム ※多少変更する場合があります。

<前半> 13:00～

■オープニング

■基調講演「人口減少下におけるまちの駅の役割を考える」

講師：鯉江康正氏（長岡大学副学長）& 鯉江ゼミの学生

■報告①「まちの駅ネットワークみつけの紹介」

<後半> 15:00～

■報告②「各まちの駅からの活動報告・近況報告」

■グループ別自由懇談

■全体情報交換

・鹿児島まちの駅連絡協議会から次回の全国大会予告

・まちの駅ネットワークみつけからプレゼント付きクイズの出題

■オンライン交流会 ※飲み物&食べ物は各自準備ください。

裏面にある「見附の美味しいものセット」をぜひご注文ください！



鯉江康正氏プロフィール

1958年、愛知県生まれ。専修大学大学院経済学研究科修士課程修了。1982年、民間シンクタンク「(株)ライテック」入社。1994年長岡短期大学専任講師に就任、2001年長岡大学助教授、2005年教授、2016年副学長／教授に就任、現在に至る。見附市ガス事業譲渡先選定委員会委員、長岡市持続可能な行財政のあり方に関する有識者懇談会委員等公職も多数。専門は地域経済学、計量経済学。『社会科学の学び方』（朝倉書店）、人口減少問題等に関する全国市区町村アンケート調査、「まちの駅」をフィールドとした学生活動とそれによる学生の成長記録など、著書・論文多数。

鯉江ゼミナール

2007年から「まちの駅」をフィールドとして、調査・研究活動を行っており、新潟県内にある約130の「まちの駅」に訪問してパネルを作成し、各まちの駅を紹介してきた。

長岡大学 学生による地域活性化プログラム 各プロジェクト報告書

1. 栃尾地区活性化に向けたにぎわい創出事業：にぎわい創出プロジェクト
～布の森 in 白屋堂堂～
石川英樹ゼミナール（1）
2. クイズラリー開催、SNS による栃尾PR
石川英樹ゼミナール（2）
3. 十分杯を世界に知らせよう！—動画制作を通して—
権 五景ゼミナール
4. きもの文化村構想の試み
～十日町地域における新たな可能性～
喬 雪氷ゼミナール
5. オープンファクトリーで長岡を活性化！
栗井英大ゼミナール
6. グラスルーツグローバル化～
—草の根・地域からの人類一体化の推進—
広田秀樹ゼミナール
7. 小学生のプログラミング教育を通じた地域活性化活動
高島幸成ゼミナール
8. 主体性を礎にした、ネットに頼らない情報の収集と課題の探索
武本隆行ゼミナール
9. デジタル・情報技術を活用した地域の財・サービスの情報発信
坂井一貴ゼミナール
10. コロナ禍における「まちの駅」の新たな交流・連携のあり方を考える
鯉江康正ゼミナール
11. 長岡市摂田屋の魅力高め、観光客を増やし、地域活性化を図る
～イベントプロジェクト～
生島義英ゼミナール（1）
12. 長岡市摂田屋の魅力高め、観光客を増やし、地域活性化を図る
～情報発信プロジェクト～
生島義英ゼミナール（2）

令和3年度 学生による地域活性化プログラム 鯉江康正ゼミナール活動報告書

【発行日】 令和4年3月30日

【発行人】 村山 光博

【発行】 長岡大学

〒940-0828 新潟県長岡市御山町80-8

TEL 0258-39-1600（代）

FAX 0258-33-8792

<https://www.nagaokauniv.ac.jp/>